

新・総合計画策定のための データ集

企画調整部企画課

目次

①	人口減少時代へ突入	1
②	超高齢社会の到来とライフスタイルや世帯構成の多様化	7
③	防災・減災対策の強化	11
④	新興国の成長によるものづくり産業への影響	12
⑤	農業ビジネスのチャンス拡大	15
⑥	地球環境問題やエネルギー問題	17
⑦	情報社会の高度化	21
⑧	公共施設や公共インフラの老朽化	22
⑨	「想定外」を想定する	24

(注)

本データ集は、新・総合計画策定方針 3 ページの「策定に向けた認識すべき注意点」の項目を沿ってデータを掲載しています。

① 人口減少時代へ突入

①-1 国内の将来推計人口

浜松市の人口は、平成22年から平成52年までに13.2ポイント(約10万9千人)減少する。減少率を比較すると、全国や静岡県よりやや緩やかであるが、政令市平均や東京都区部よりやや大きい。

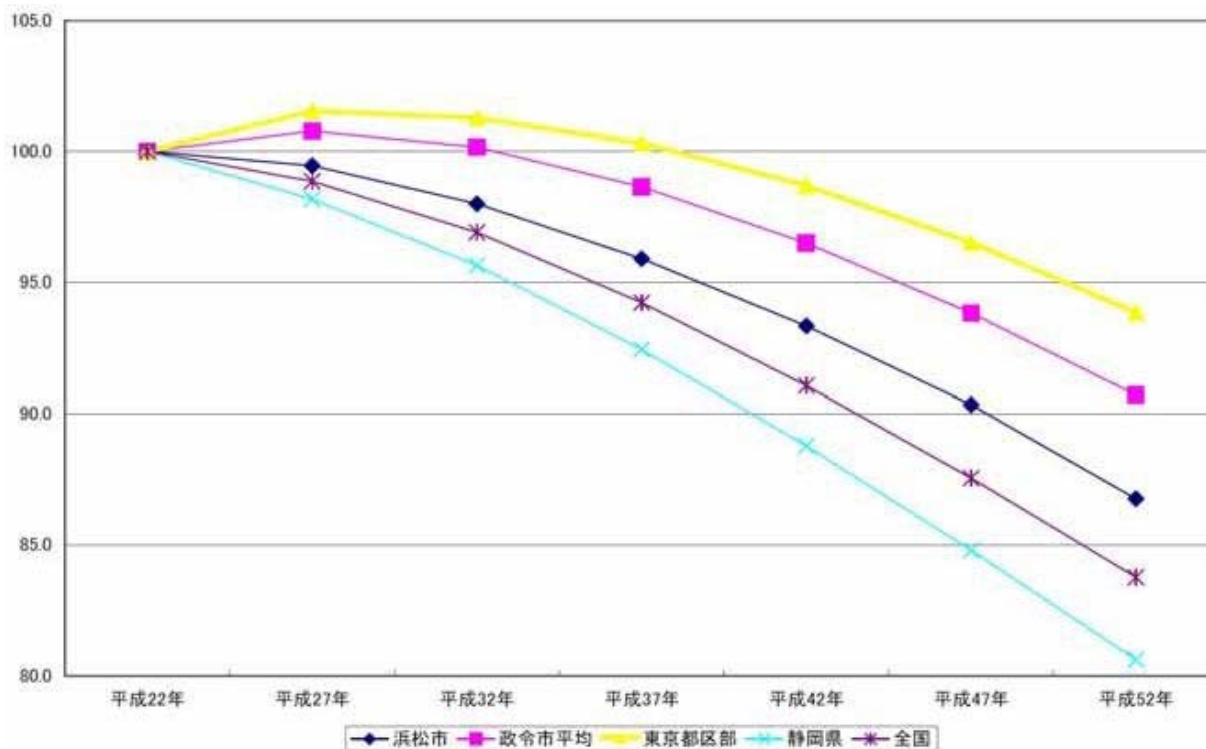
(単位:人)

	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年
浜松市	800,866	796,490	784,867	768,049	747,511	723,542	694,887
	100.0	99.5	98.0	95.9	93.3	90.3	86.8
政令市平均	1,357,619	1,368,170	1,359,785	1,339,216	1,310,059	1,273,816	1,231,517
	100.0	100.8	100.2	98.6	96.5	93.8	90.7
東京都区部	8,945,695	9,084,451	9,061,086	8,973,870	8,829,189	8,634,634	8,395,687
	100.0	101.6	101.3	100.3	98.7	96.5	93.9
静岡県	3,765,007	3,696,499	3,601,121	3,480,333	3,342,558	3,192,733	3,035,359
	100.0	98.2	95.6	92.4	88.8	84.8	80.6
全国	128,057,352	126,597,295	124,099,925	120,658,815	116,617,657	112,123,574	107,275,850
	100.0	98.9	96.9	94.2	91.1	87.6	83.8

注) 下段は、平成22年を100とした指数。

資料: 浜松市企画課「浜松市の将来推計人口(平成25年3月推計)」

資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)-平成22(2010)~52(2040)年-」



(a) 高齢者数比較

浜松市の高齢者数は、平成22年から平成52年までに38.4ポイント(約7万人)増加する。増加率を比較すると、全国や静岡県よりやや大きく、政令市平均や東京都区部よりやや小さい。

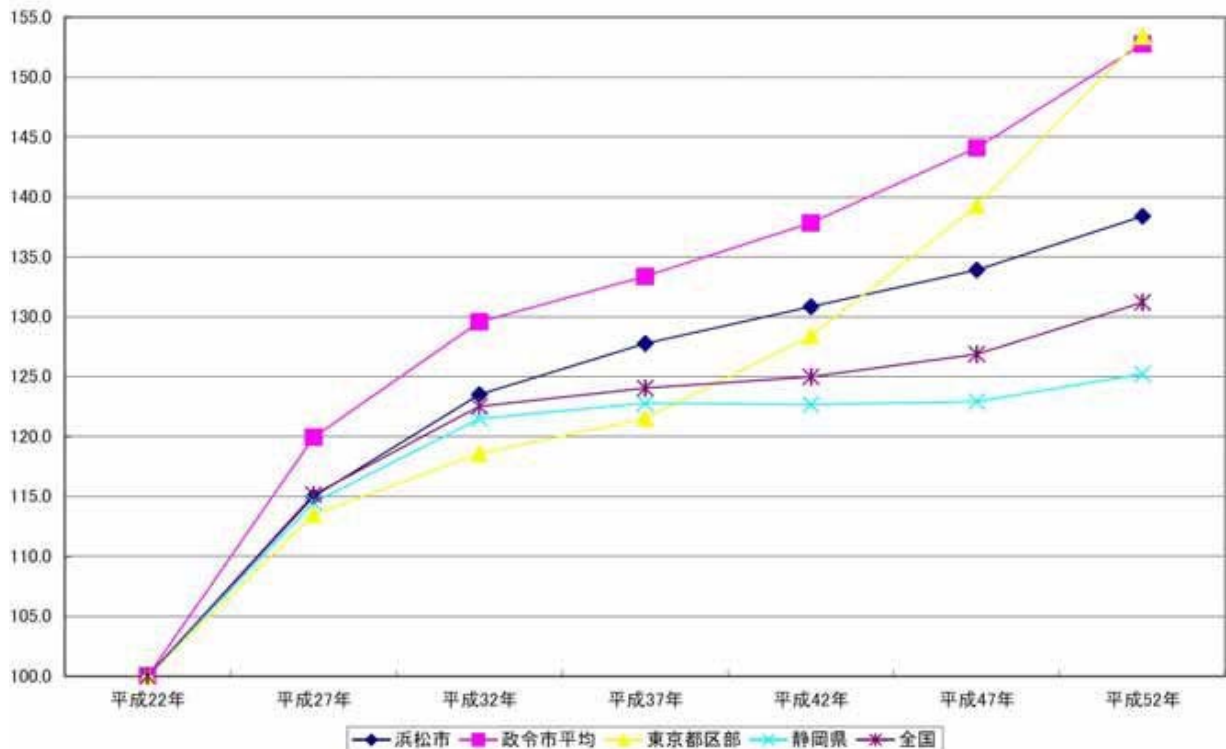
(単位:人)

	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年
浜松市	183,196	210,659	226,270	234,073	239,697	245,303	253,512
	100.0	115.0	123.5	127.8	130.8	133.9	138.4
	23%	27%	29%	31%	32%	34%	37%
政令市平均	286,179	343,217	370,807	381,695	394,452	412,401	437,128
	100.0	119.9	129.6	133.4	137.8	144.1	152.7
	21%	25%	27%	29%	30%	32%	35%
東京都区部	1,804,464	2,047,709	2,139,726	2,192,719	2,317,109	2,513,091	2,768,307
	100.0	113.5	118.6	121.5	128.4	139.3	153.4
	20%	23%	24%	24%	26%	29%	33%
静岡県	896,948	1,026,869	1,089,795	1,101,284	1,100,260	1,102,652	1,123,164
	100.0	114.5	121.5	122.8	122.7	122.9	125.2
	24%	28%	30%	32%	33%	35%	37%
全国	29,483,665	33,951,869	36,123,804	36,573,488	36,849,258	37,407,182	38,678,103
	100.0	115.2	122.5	124.0	125.0	126.9	131.2
	23%	27%	29%	30%	32%	33%	36%

注) 下段は、平成22年を100とした指数。下段は、高齢化率。

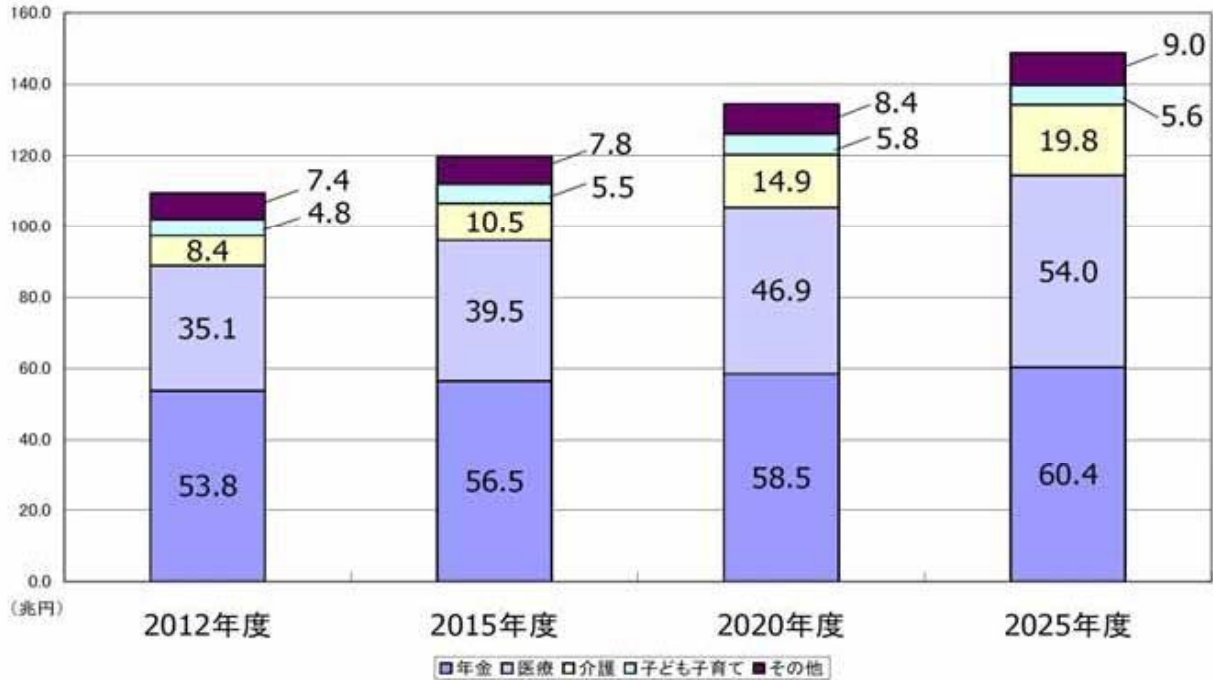
資料: 浜松市企画課「浜松市の将来推計人口(平成25年3月推計)」

資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)-平成22(2010)~52(2040)年-」



(b) 国の社会保障費の見込み

2012年度から2025年度までに、国の医療費は35.1兆円から54.0兆円へ約54%増加し、介護給付費は8.4兆円から19.8兆円へ約136%の増加が見込まれる。社会保障費全体では、109.5兆円から148.9兆円へ約36%の増加が見込まれる。



資料：内閣府「社会保障の現状と課題」を基に作成

(c) 浜松市の医療と介護の支出の推移

2008年度から2012年度までに、浜松市の国民健康保険事業及び後期高齢者医療事業の合計は、771億円から874億円へ約13%増加し、介護保険事業は426億円から531億円へ約25%増加した。



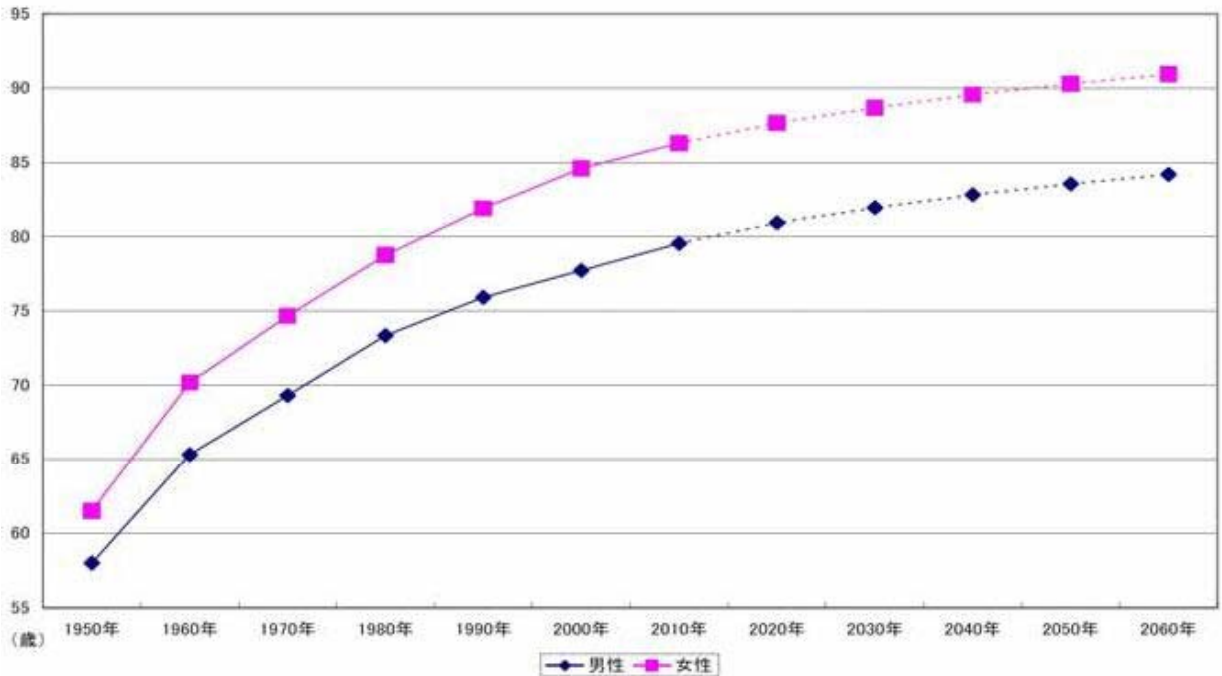
資料：浜松市財政課「財政のすがた」を基に作成

(d) 国の平均寿命の推移

今後も平均寿命は伸び続け、2050年には女性は90歳を越える。

(単位:歳)

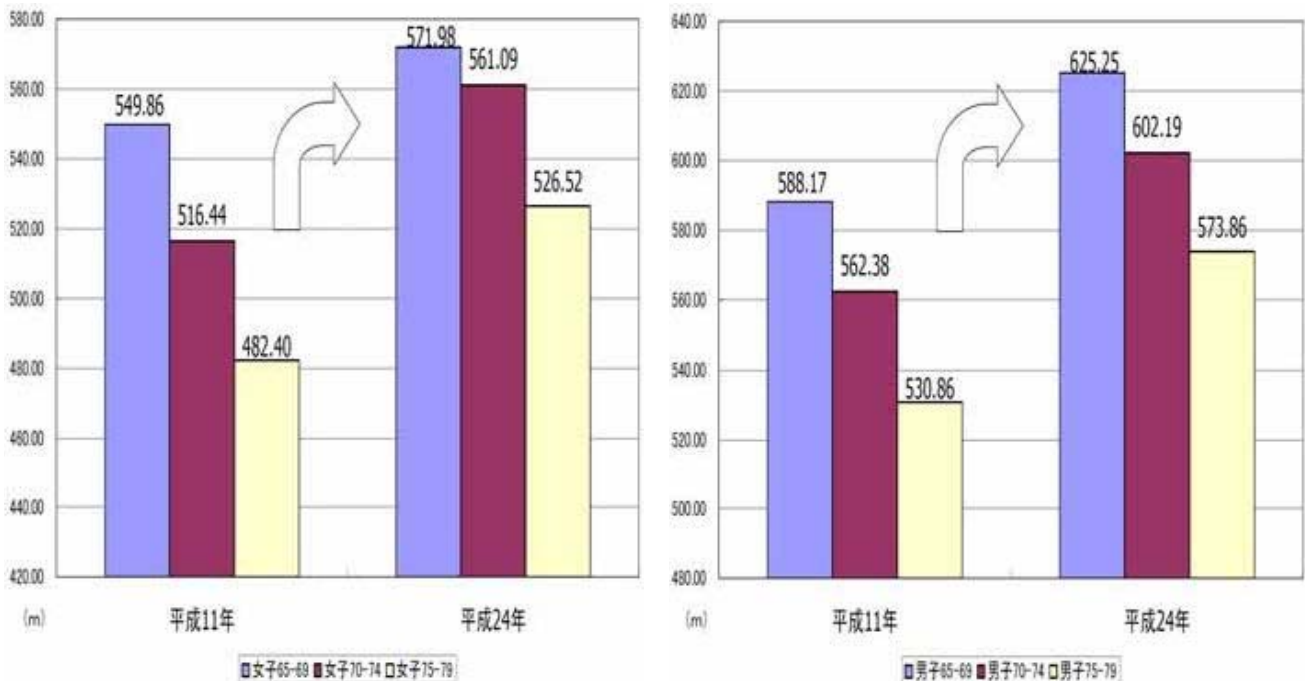
	1950年	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
男性	58	65.32	69.31	73.35	75.92	77.72	79.55	80.93	81.95	82.82	83.55	84.19
女性	61.5	70.19	74.66	78.76	81.9	84.6	86.3	87.65	88.68	89.55	90.29	90.93



資料:厚生労働省「簡易生命表」、厚生労働省「完全生命表」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」を基に作成

(e) 高齢者の6分間歩行平均値

男女ともすべての年齢区分において数値が上昇しており、高齢者の運動機能が向上している。



資料:文部科学省「平成23年度体力・運動能力調査」を基に作成

①-2 G8（主要国首脳会議）の将来推計人口等（1950年～2050年）

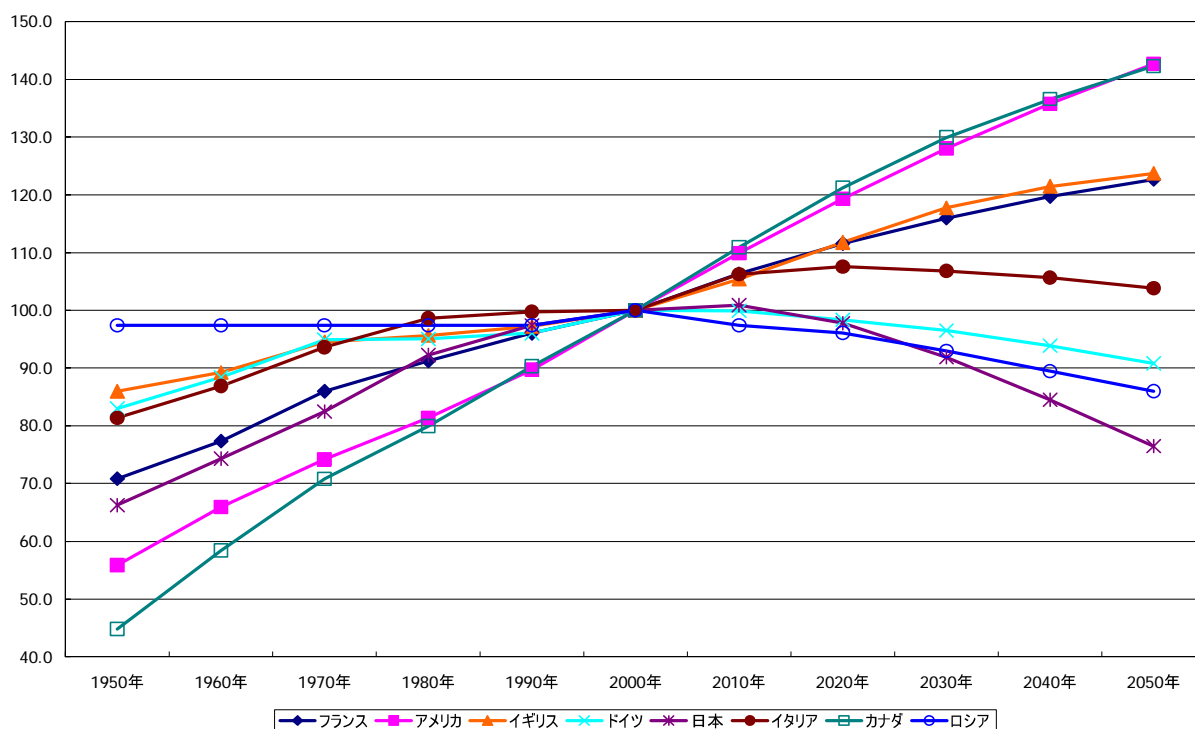
(a) 人口

G8(主要国首脳会議)の 2050 年までの推計人口を見ると、人口が減少に転じていくのは、ドイツ、日本、イタリア、ロシアの 4 か国である。

(単位：千人)

	1950年	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年
フランス	41,832 70.8	45,689 77.4	50,763 86.0	53,880 91.2	56,708 96.0	59,048 100.0	62,787 106.3	65,874 111.6	68,467 116.0	70,681 119.7	72,442 122.7
アメリカ	157,813 55.9	186,326 66.0	209,464 74.1	229,825 81.4	253,339 89.7	282,496 100.0	310,384 109.9	337,102 119.3	361,680 128.0	383,460 135.7	403,101 142.7
イギリス	50,616 86.0	52,544 89.2	55,645 94.5	56,303 95.6	57,214 97.2	58,874 100.0	62,036 105.4	65,802 111.8	69,314 117.7	71,525 121.5	72,817 123.7
ドイツ	68,376 83.0	72,815 88.4	78,169 94.9	78,289 95.1	79,098 96.1	82,349 100.0	82,302 99.9	80,988 98.3	79,469 96.5	77,305 93.9	74,781 90.8
日本	84,115 66.3	94,302 74.3	104,665 82.5	117,060 92.2	123,611 97.4	126,926 100.0	128,057 100.9	124,100 97.8	116,618 91.9	107,276 84.5	97,076 76.5
イタリア	46,367 81.4	49,519 86.9	53,325 93.6	56,221 98.7	56,832 99.7	56,986 100.0	60,551 106.3	61,290 107.6	60,851 106.8	60,182 105.6	59,158 103.8
カナダ	13,737 44.8	17,909 58.4	21,717 70.8	24,516 79.9	27,701 90.3	30,667 100.0	34,017 110.9	37,163 121.2	39,850 129.9	41,882 136.6	43,642 142.3
ロシア	142,958 97.4	142,958 97.4	142,958 97.4	142,958 97.4	142,958 97.4	146,758 100.0	142,958 97.4	141,022 96.1	136,429 93.0	131,280 89.5	126,188 86.0

注) 下段は、2000年を100とした指数。
資料：総務省統計局「世界の統計2013」



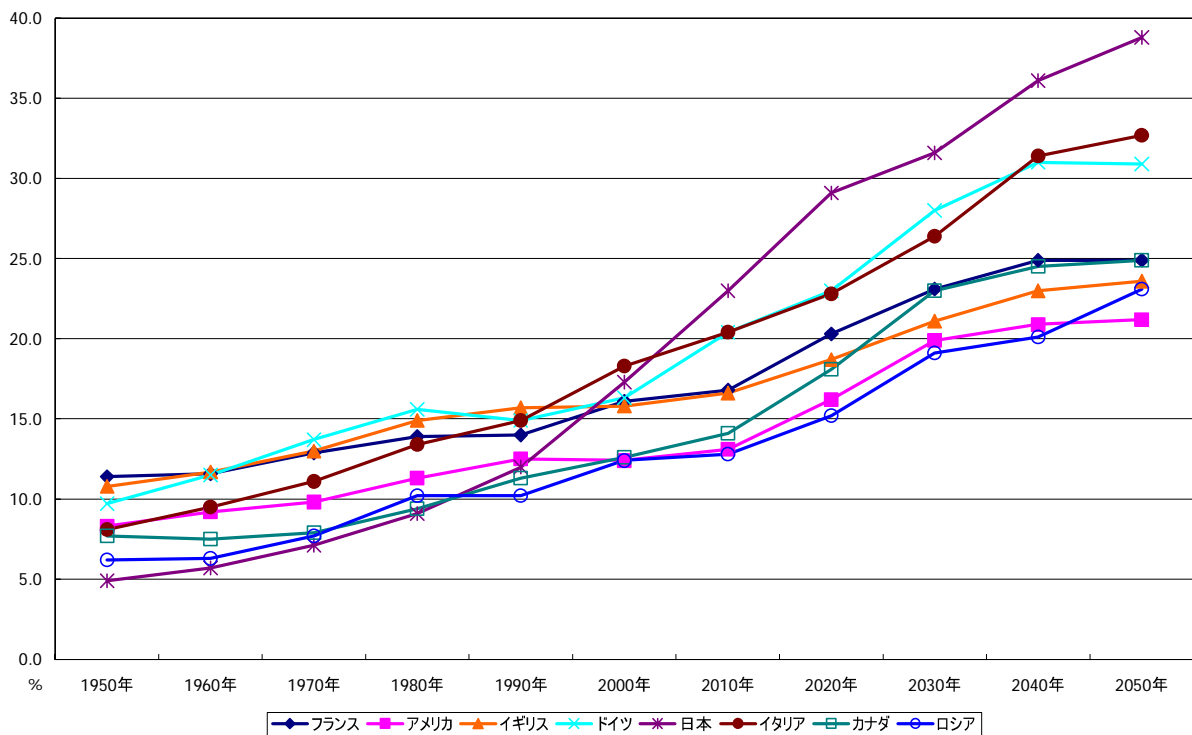
(b) 高齢化率

G8(主要国首脳会議)の 2050 年までの推計人口による高齢化率を見ると、すべての国において高齢化率は上昇していくが、ドイツ、日本、イタリアが突出している。

(単位：%)

	1950年	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年
フランス	11.4	11.6	12.9	13.9	14.0	16.1	16.8	20.3	23.1	24.9	24.9
アメリカ	8.3	9.2	9.8	11.3	12.5	12.4	13.1	16.2	19.9	20.9	21.2
イギリス	10.8	11.7	13.0	14.9	15.7	15.8	16.6	18.7	21.1	23.0	23.6
ドイツ	9.7	11.5	13.7	15.6	14.9	16.3	20.4	23.0	28.0	31.0	30.9
日本	4.9	5.7	7.1	9.1	12.0	17.3	23.0	29.1	31.6	36.1	38.8
イタリア	8.1	9.5	11.1	13.4	14.9	18.3	20.4	22.8	26.4	31.4	32.7
カナダ	7.7	7.5	7.9	9.4	11.3	12.6	14.1	18.1	23.0	24.5	24.9
ロシア	6.2	6.3	7.7	10.2	10.2	12.4	12.8	15.2	19.1	20.1	23.1

資料：総務省統計局「世界の統計2013」



② 超高齢社会の到来とライフスタイルや世帯構成の多様化

②-1 国内の将来推計人口(世帯類型比較)

浜松市、静岡県、全国に共通する傾向としては、標準世帯とされる「夫婦と子供から成る世帯」は減少し、「単独世帯」と「ひとり親と子供から成る世帯」は増加する。特に、65歳以上の単独世帯の増加が顕著である。

浜松市

(単位：世帯)

区分	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
単独世帯	85,335 100.0	93,839 110.0	102,682 120.3	111,394 130.5	119,076 139.5	124,673 146.1
(65歳以上)	22,541 100.0	29,293 130.0	35,298 156.6	40,765 180.9	45,980 204.0	50,902 225.8
夫婦のみの世帯	57,532 100.0	61,664 107.2	65,216 113.4	68,129 118.4	70,293 122.2	72,157 125.4
夫婦と子供から成る世帯	87,759 100.0	86,459 98.5	83,969 95.7	80,318 91.5	76,700 87.4	74,393 84.8
ひとり親と子供から成る世帯	23,850 100.0	26,788 112.3	29,628 124.2	31,988 134.1	33,843 141.9	35,256 147.8
その他の世帯	45,529 100.0	40,960 90.0	35,672 78.4	30,801 67.7	27,390 60.2	24,676 54.2

注) 下段は、平成22年を100とした指数。

資料：浜松市企画課「浜松市の将来推計人口(平成25年3月推計)」

静岡県

(単位：世帯)

区分	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
単独世帯	369,537 100.0	397,600 107.6	423,504 114.6	445,043 120.4	458,186 124.0	
(65歳以上)	104,165 100.0	130,925 125.7	152,099 146.0	167,103 160.4	181,418 174.2	
夫婦のみの世帯	271,154 100.0	277,123 102.2	276,806 102.1	272,340 100.4	264,573 97.6	
夫婦と子供から成る世帯	387,285 100.0	367,104 94.8	342,930 88.5	319,271 82.4	297,566 76.8	
ひとり親と子供から成る世帯	120,657 100.0	129,597 107.4	134,975 111.9	137,089 113.6	136,561 113.2	
その他の世帯	235,358 100.0	224,902 95.6	217,415 92.4	210,340 89.4	202,505 86.0	

注) 下段は、平成22年を100とした指数。

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(都道府県推計)」

全国

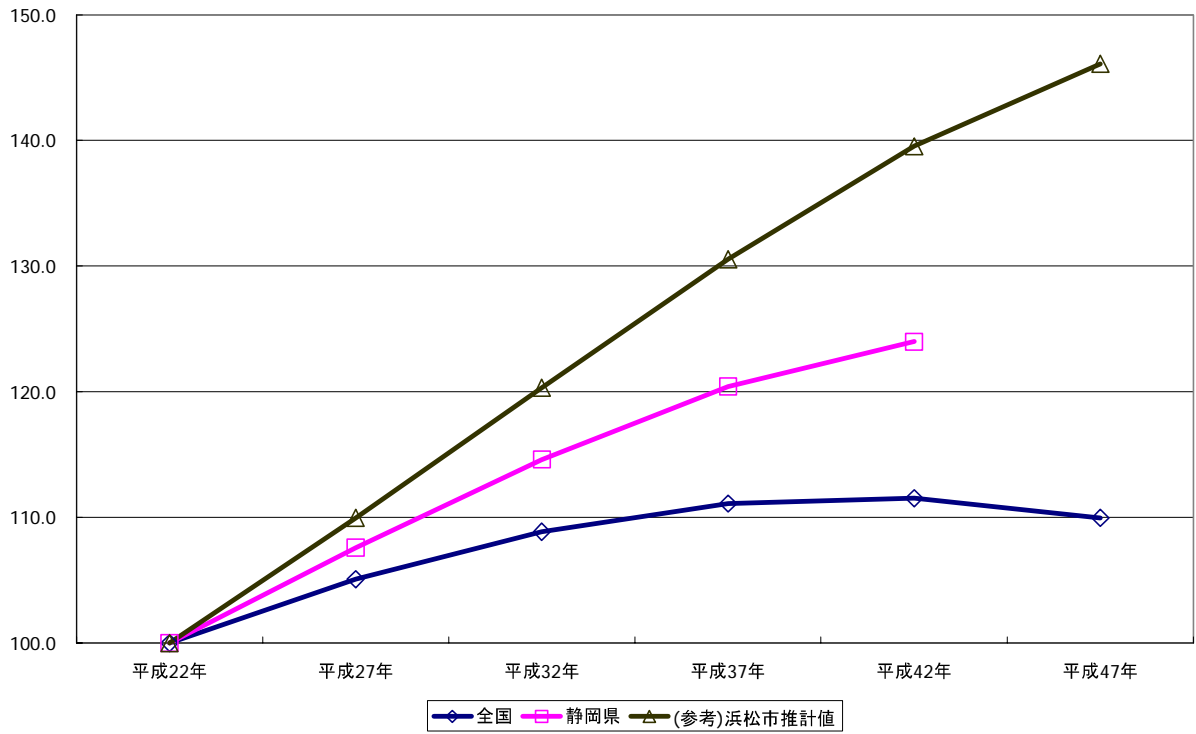
(単位：世帯)

区分	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
単独世帯	16,784,507 100.0	17,637,449 105.1	18,270,117 108.9	18,648,165 111.1	18,717,900 111.5	18,456,861 110.0
(65歳以上)	4,979,781 100.0	6,008,310 120.7	6,678,761 134.1	7,006,663 140.7	7,297,999 146.6	7,622,173 153.1
夫婦のみの世帯	10,268,774 100.0	10,860,523 105.8	11,036,649 107.5	10,973,228 106.9	10,781,623 105.0	10,499,973 102.3
夫婦と子供から成る世帯	14,474,301 100.0	14,273,813 98.6	13,813,727 95.4	13,131,853 90.7	12,340,297 85.3	11,532,301 79.7
ひとり親と子供から成る世帯	4,535,380 100.0	4,982,153 109.9	5,338,391 117.7	5,558,467 122.6	5,648,061 124.5	5,645,450 124.5
その他の世帯	5,779,346 100.0	5,149,806 89.1	4,594,287 79.5	4,127,392 71.4	3,742,652 64.8	3,420,689 59.2

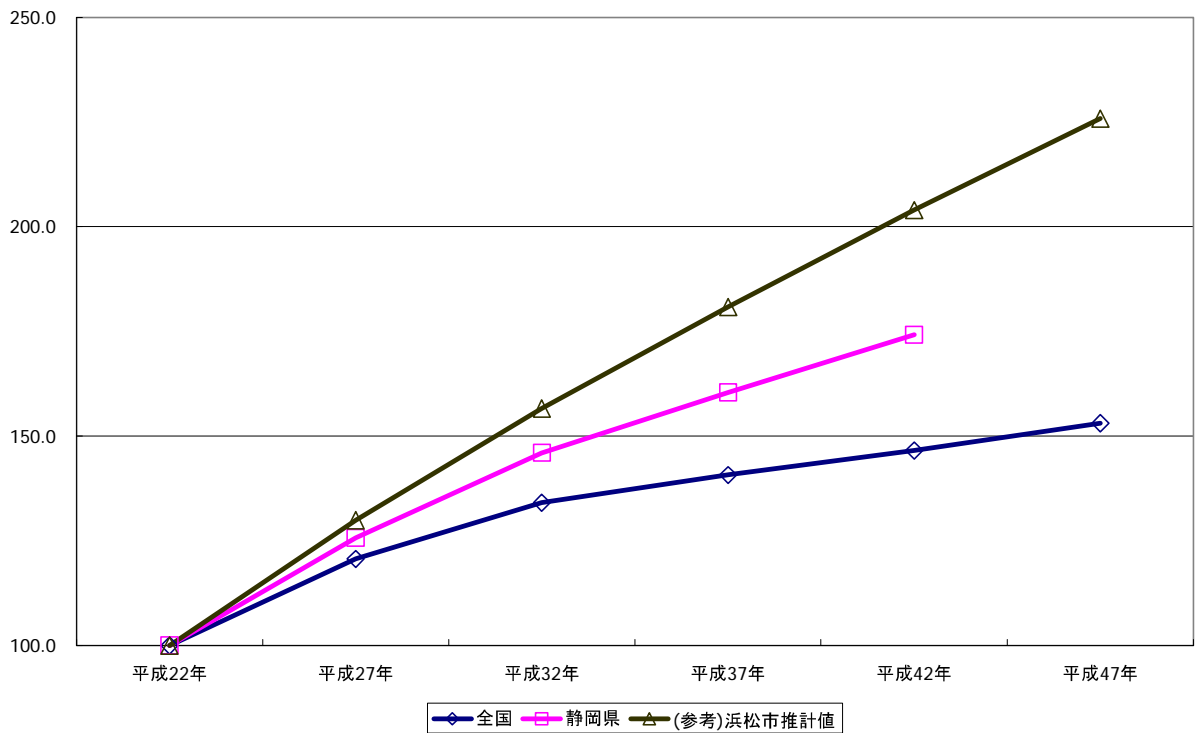
注) 下段は、平成22年を100とした指数。

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)」

- 単独世帯 -

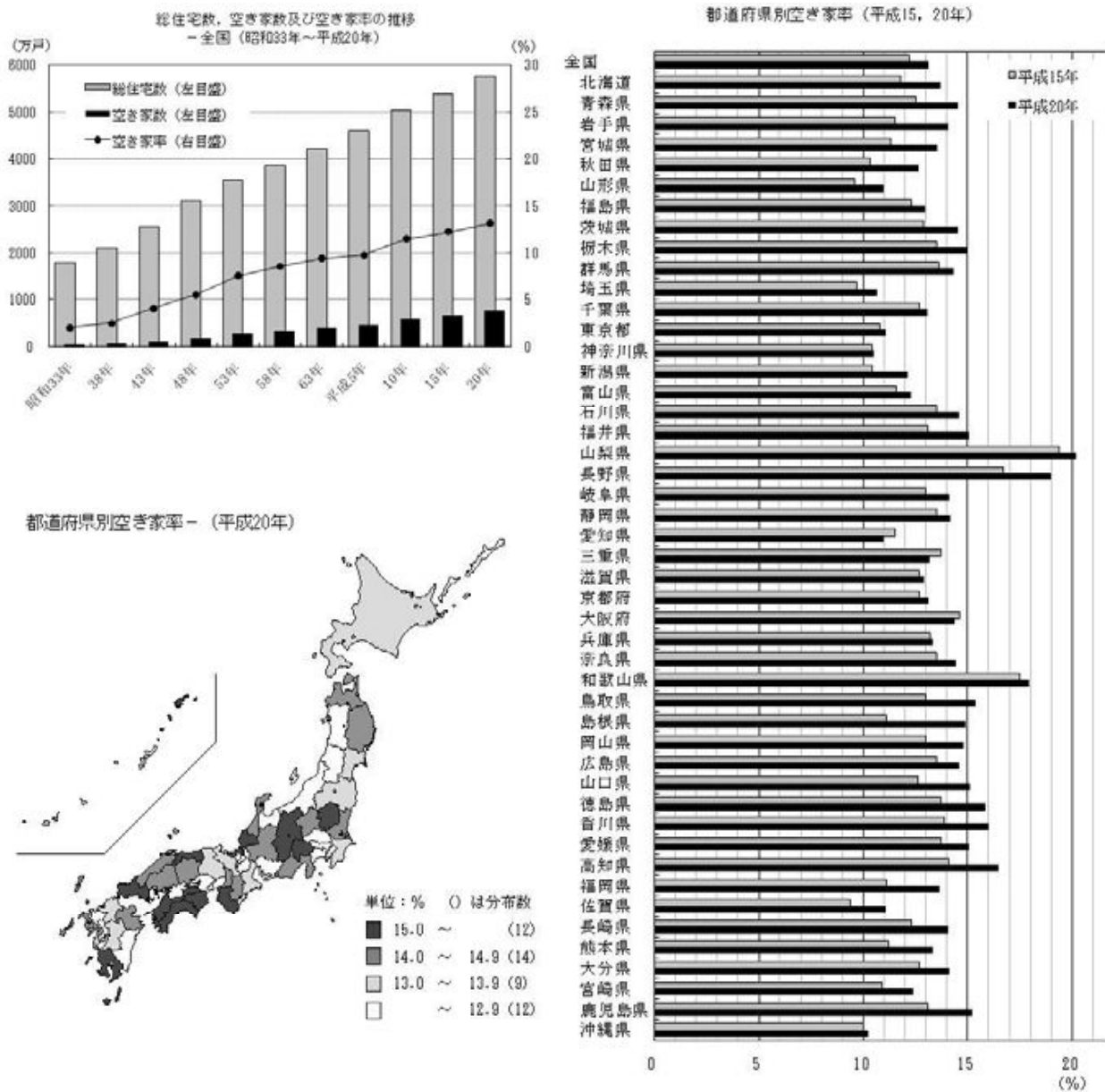


- 単独世帯(65歳以上) -



②-2 空き家の増加

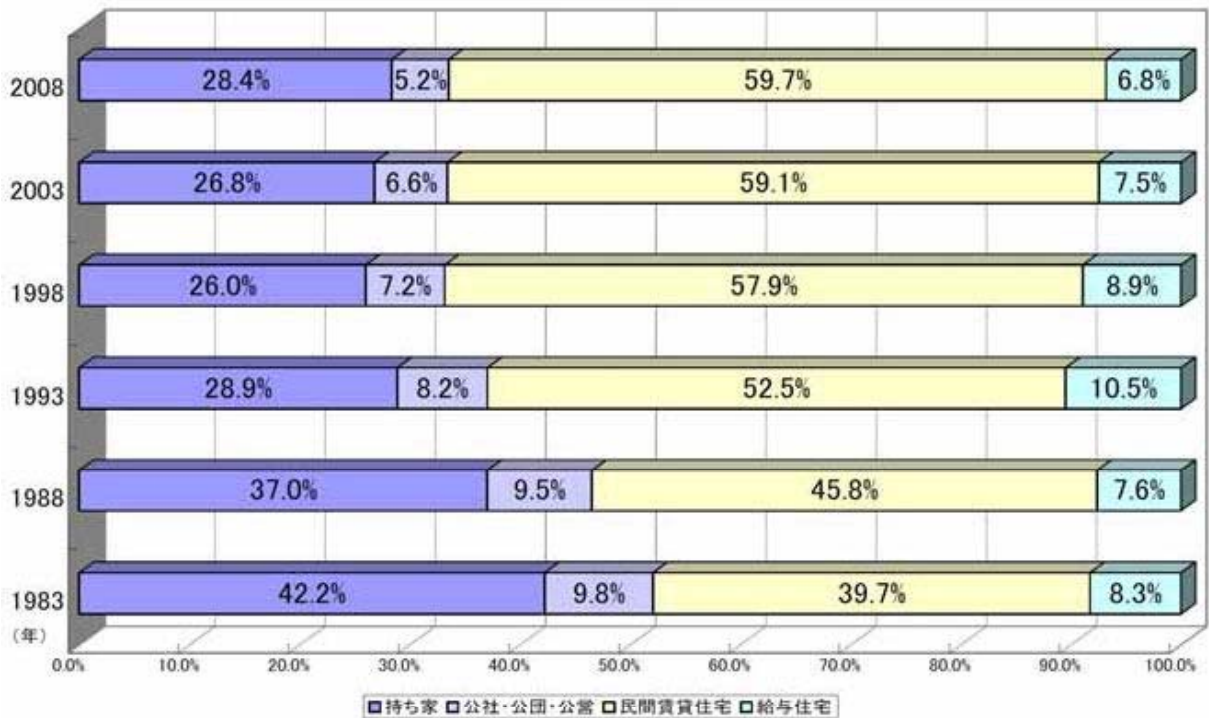
人口減少、高齢者の施設入居等により全国的に空き家が増えている。その一方で、子育て世代の戸建て所有率は低くなっている。



資料：総務省統計局 HP「平成20年住宅・土地統計調査(速報集計)結果の要約

(a) 若者(40歳未満)の住宅の所有関係の推移

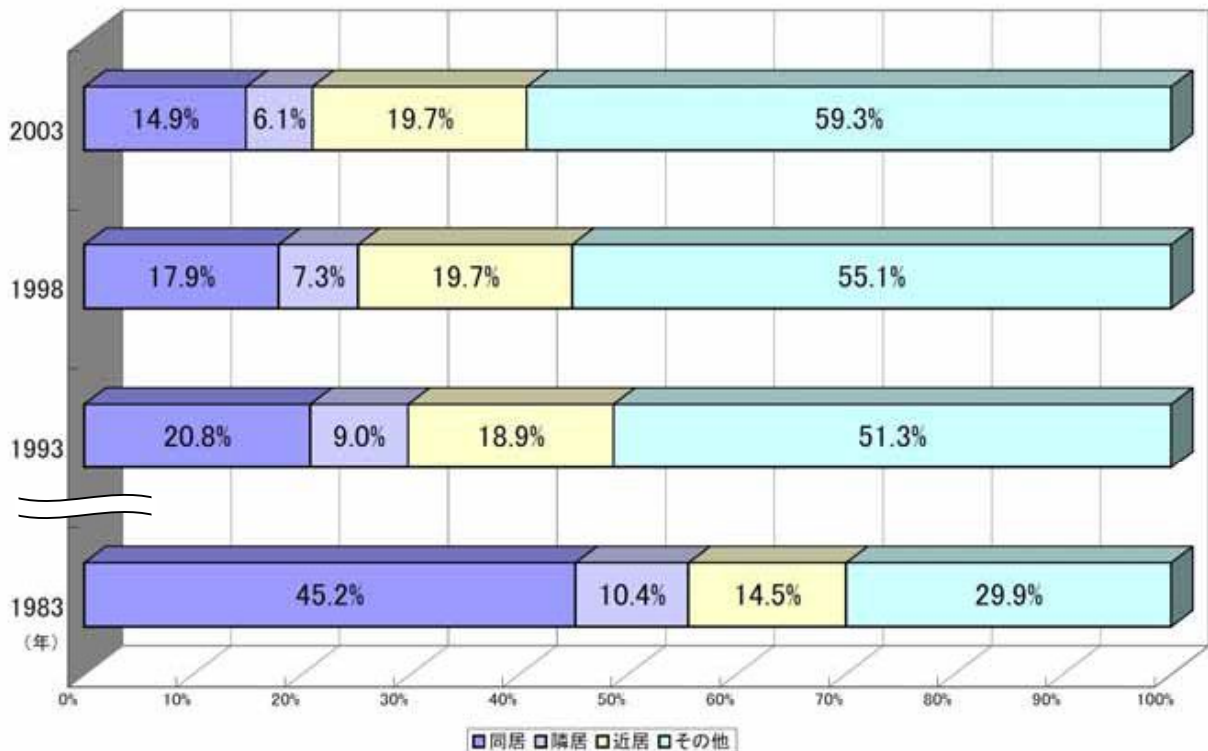
1983年から2008年までに、持ち家が42.2%から28.4%へ減少する一方、民間賃貸住宅は39.7%から59.7%へ増加している。



資料：国土交通省「国土交通白書 2013」を基に作成

(b) 高齢期における住まい方に関する意向（65歳以上の世帯主）

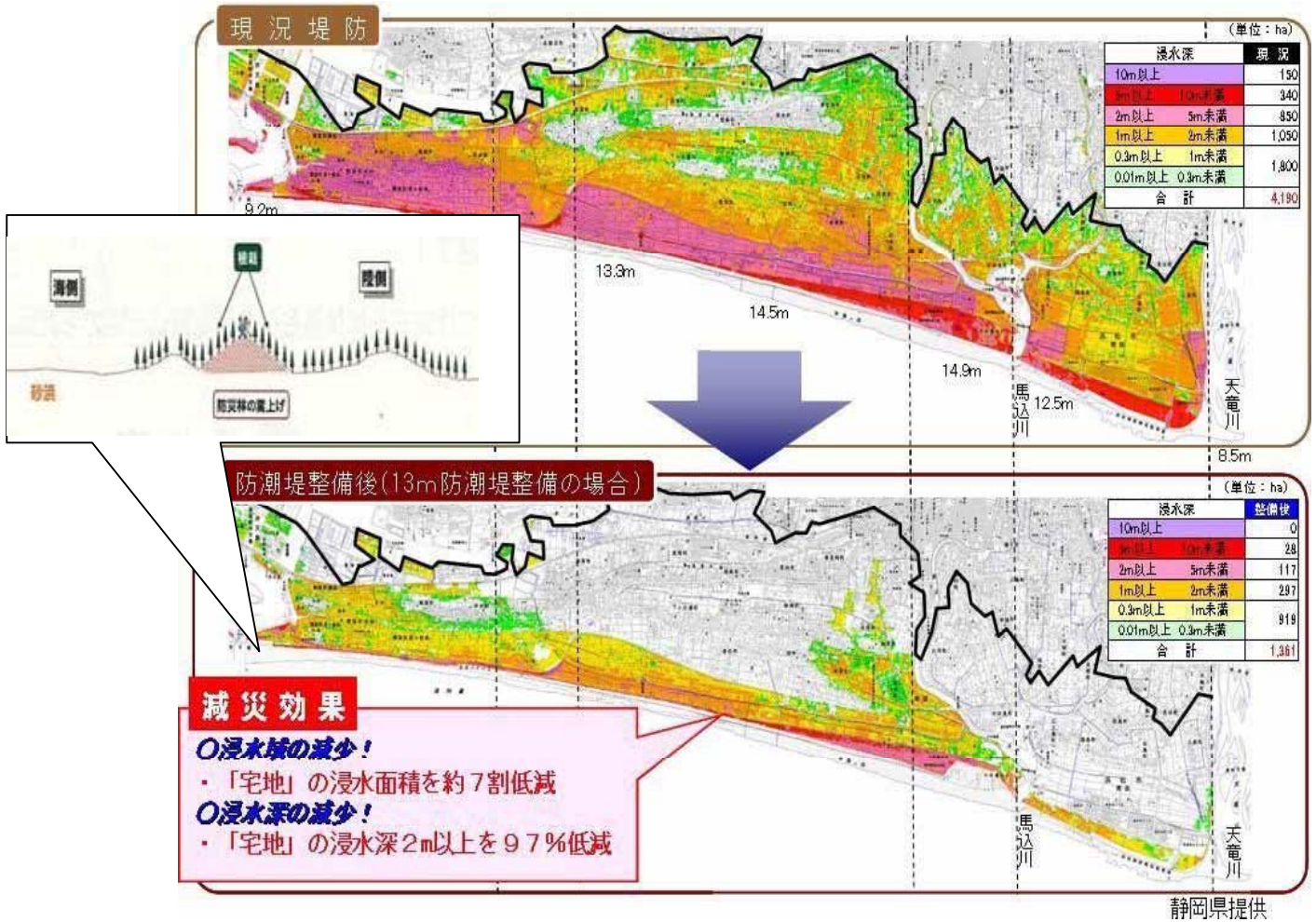
同居及び隣居の意向は、年を追うごとに減少している。



資料：国土交通省住宅局「平成 15 年住宅需要実態調査」を基に作成

③ 防災・減災対策の強化

③-1 レベル2の津波の最大浸水深図



④ 新興国の成長によるものづくり産業への影響

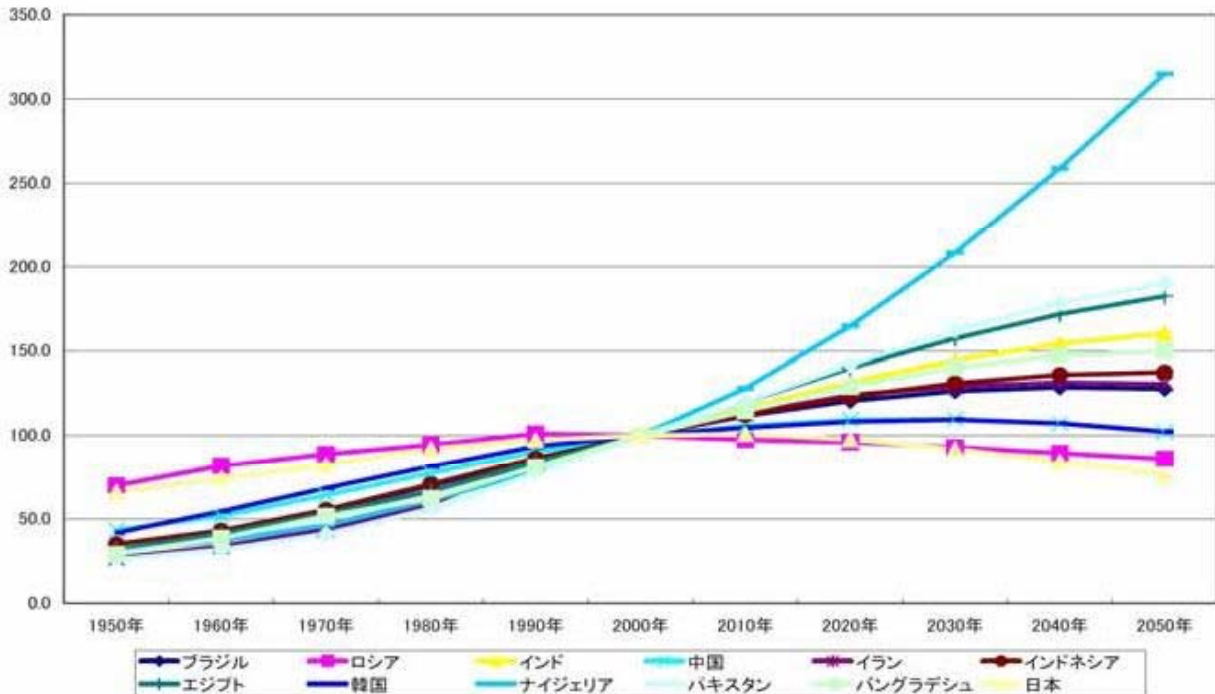
④-1 BRICs、ネクストイレブン人口実績、人口推計

新興国の多くは、今後も人口の増加が見込まれる。

(単位：千人)

	1950年	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年
ブラジル	53,975 30.9	72,759 41.7	96,078 55.1	121,712 69.8	149,650 85.8	174,425 100.0	194,946 111.8	210,433 120.6	220,492 126.4	224,431 128.7	222,843 127.8
ロシア	102,702 70.0	119,906 81.7	130,392 88.8	138,655 94.5	148,244 101.0	146,758 100.0	142,958 97.4	141,022 96.1	136,429 93.0	131,280 89.5	126,188 86.0
インド	371,857 35.3	447,844 42.5	553,874 52.6	700,059 66.4	873,785 82.9	1,053,898 100.0	1,224,614 116.2	1,386,909 131.6	1,523,482 144.6	1,627,029 154.4	1,692,008 160.5
中国	550,771 43.4	658,270 51.9	814,623 64.2	983,171 77.5	1,145,195 90.2	1,269,117 100.0	1,341,335 105.7	1,387,792 109.4	1,393,076 109.8	1,360,906 107.2	1,295,604 102.1
イラン	17,414 26.7	21,999 33.7	28,662 43.9	38,577 59.0	54,871 84.0	65,342 100.0	73,974 113.2	81,045 124.0	84,439 129.2	85,893 131.5	85,344 130.6
インドネシア	74,837 35.1	91,947 43.1	118,362 55.5	150,820 70.7	184,346 86.4	213,395 100.0	239,871 112.4	262,569 123.0	279,659 131.1	290,223 136.0	293,456 137.5
エジプト	21,514 31.8	27,903 41.2	35,923 53.1	44,952 66.4	56,843 84.0	67,648 100.0	81,121 119.9	94,810 140.2	106,498 157.4	116,232 171.8	123,452 182.5
韓国	19,211 41.8	25,074 54.5	31,443 68.4	37,460 81.5	42,980 93.5	45,988 100.0	48,184 104.8	49,810 108.3	50,335 109.5	49,354 107.3	47,050 102.3
トルコ	21,238 33.4	28,161 44.3	35,464 55.7	44,105 69.3	54,130 85.1	63,628 100.0	72,752 114.3	80,753 126.9	86,665 136.2	90,302 141.9	91,617 144.0
ナイジェリア	37,860 30.6	45,926 37.1	57,357 46.4	75,543 61.1	97,552 78.9	123,689 100.0	158,423 128.1	203,869 164.8	257,815 208.4	320,341 259.0	389,615 315.0
パキスタン	37,542 26.0	45,920 31.8	59,383 41.1	80,493 55.7	111,845 77.4	144,522 100.0	173,593 120.1	205,364 142.1	234,432 162.2	257,778 178.4	274,875 190.2
バングラデシュ	37,895 29.2	50,102 38.7	66,881 51.6	80,624 62.2	105,256 81.2	129,592 100.0	148,692 114.7	167,256 129.1	181,863 140.3	190,934 147.3	194,353 150.0
フィリピン	18,397 23.8	26,010 33.6	35,451 45.9	47,064 60.9	61,629 79.7	77,310 100.0	93,261 120.6	109,742 142.0	126,321 163.4	141,675 183.3	154,939 200.4
ベトナム	28,264 35.9	35,173 44.7	44,928 57.0	54,023 68.6	67,102 85.2	78,758 100.0	87,848 111.5	96,355 122.3	101,483 128.9	104,047 132.1	103,962 132.0
メキシコ	27,866 27.9	38,419 38.4	51,868 51.9	68,776 68.8	84,307 84.3	99,960 100.0	113,423 113.5	125,928 126.0	135,398 135.5	141,523 141.6	143,925 144.0
日本	84,115 66.3	94,302 74.3	104,665 82.5	117,060 92.2	123,611 97.4	126,926 100.0	128,057 100.9	124,100 97.8	116,618 91.9	107,276 84.5	97,076 76.5

注) 下段は、2000年を100とした指数。
資料：総務省統計局「世界の統計2013」



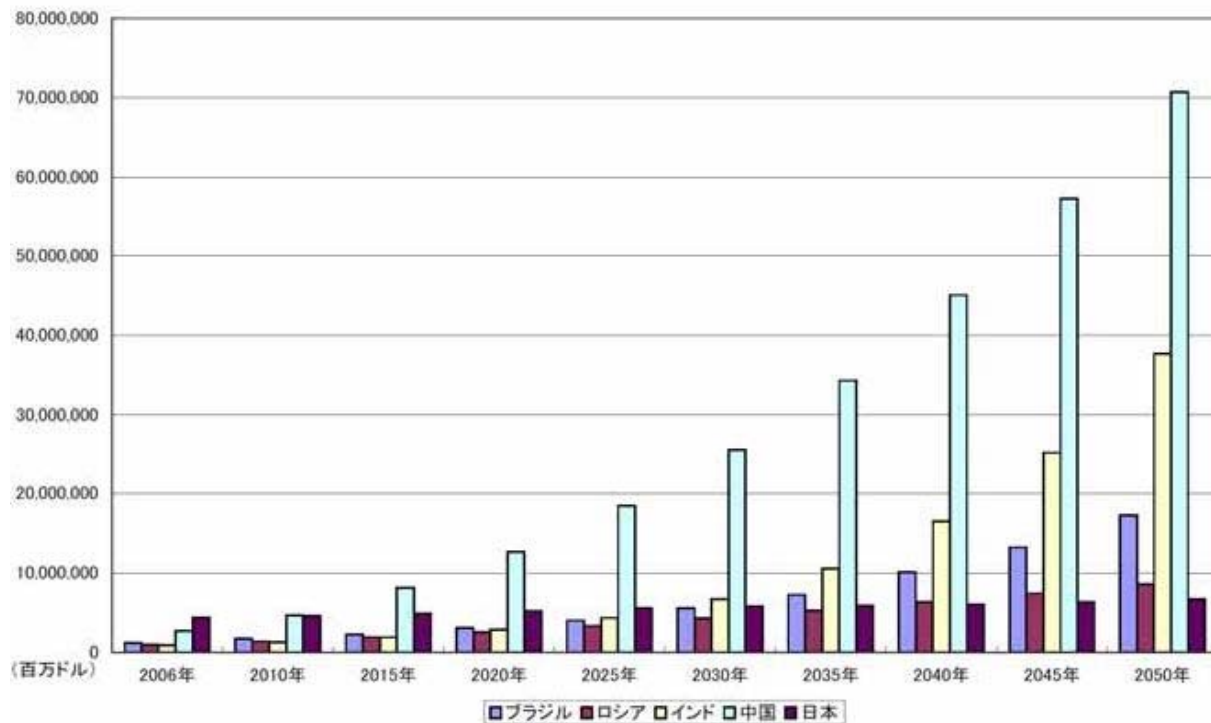
※ BRICs...経済発展が著しいブラジル、ロシア、インド、中国の4か国の総称

※ ネクストイレブン...BRICsに次ぐ急成長が期待されるとした11の新興経済発展国家群

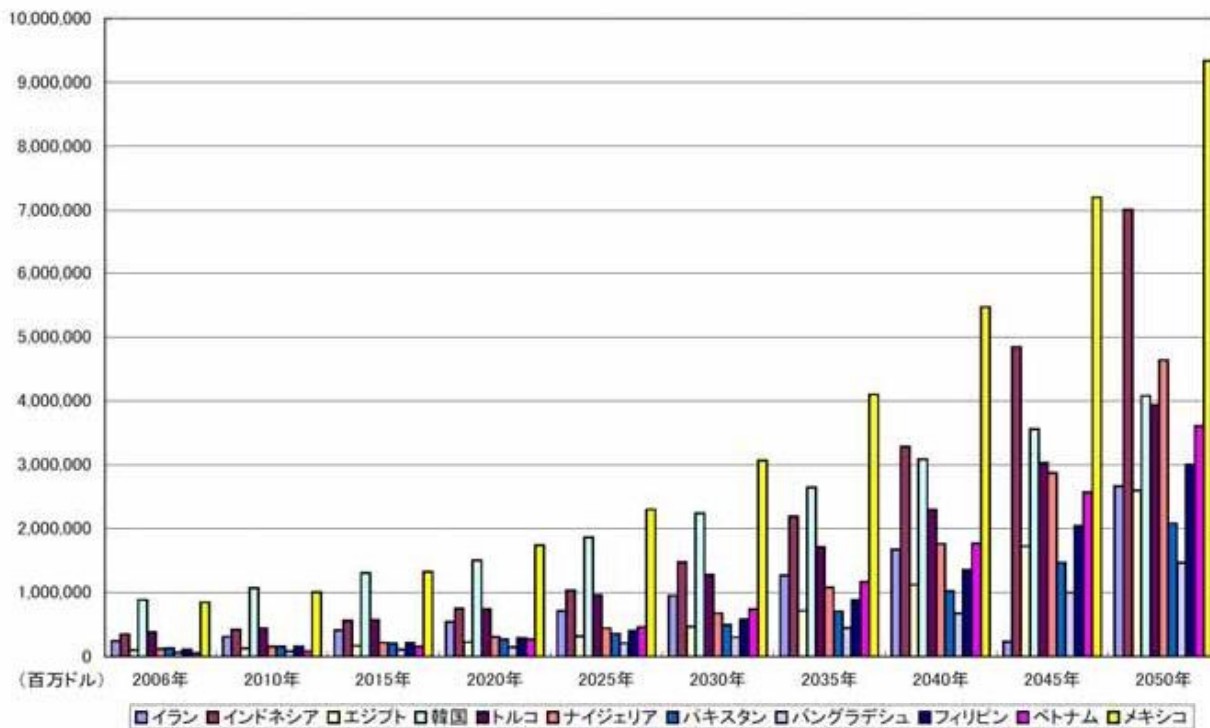
④-2 BRICs 及びネクストイレブン GDP 予測

BRICs では、中国とインドの成長が突出しており、ネクストイレブンではインドネシアやメキシコの成長が著しい。

(a) BRICs



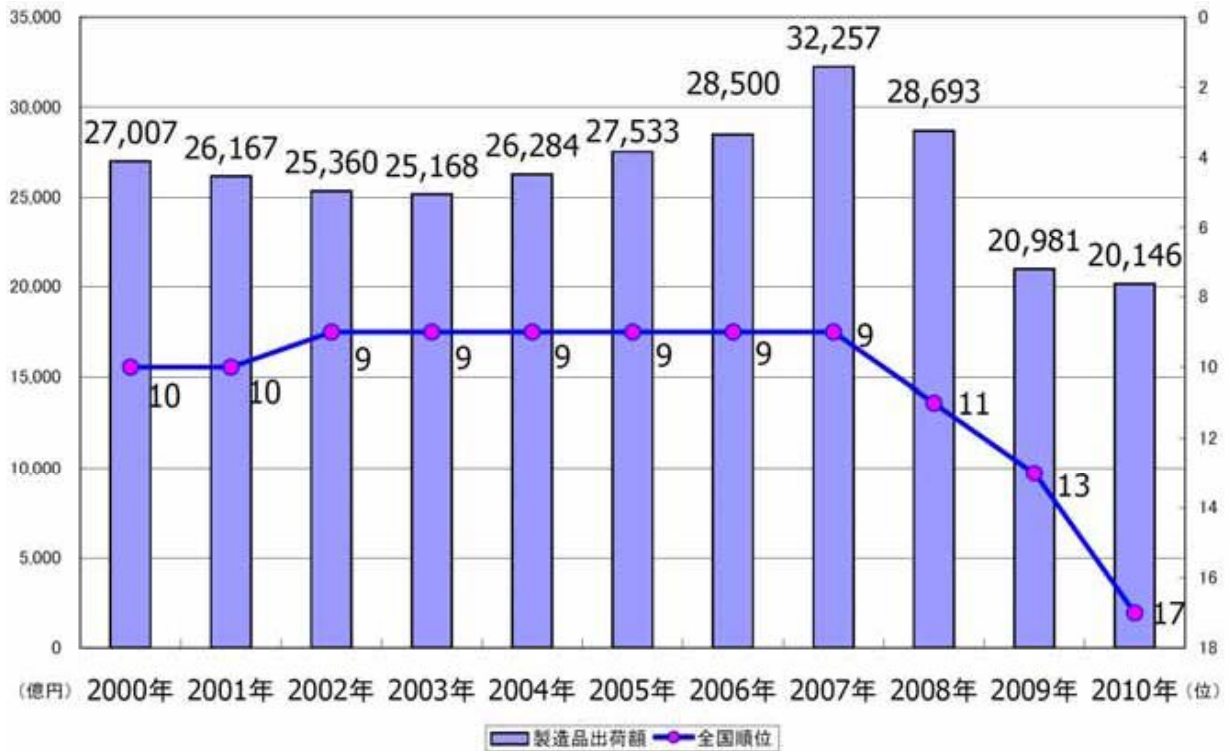
(b) ネクストイレブン



資料 : Goldman Sachs study of N11 nations, Global economics Paper No:153, March 28, 2007.

④-3 浜松市の製造品出荷額と全国順位の推移

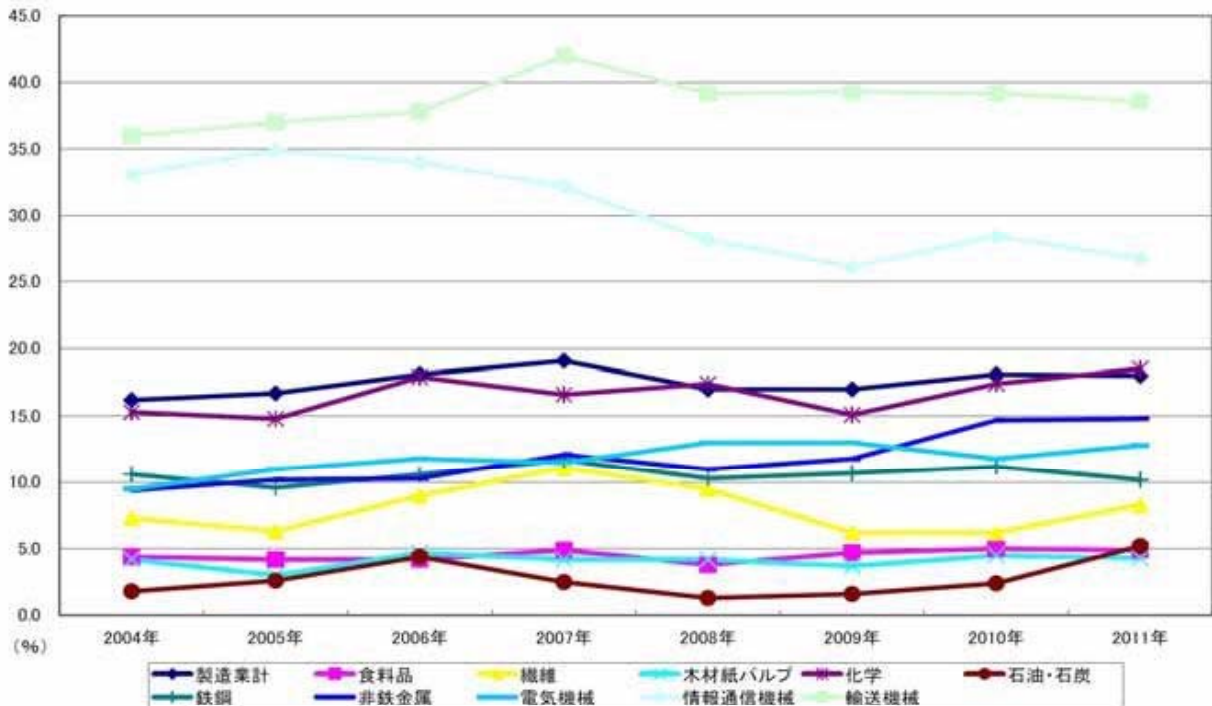
2007年まで堅調に推移していたが、それ以降は大きく減少している。



資料：静岡県西部地域しんぎん経済研究所 HP を基に作成

④-4 業種別海外生産比率の推移(国内全法人ベース(製造業))

輸送機械においては、海外生産が高い比率で推移している。

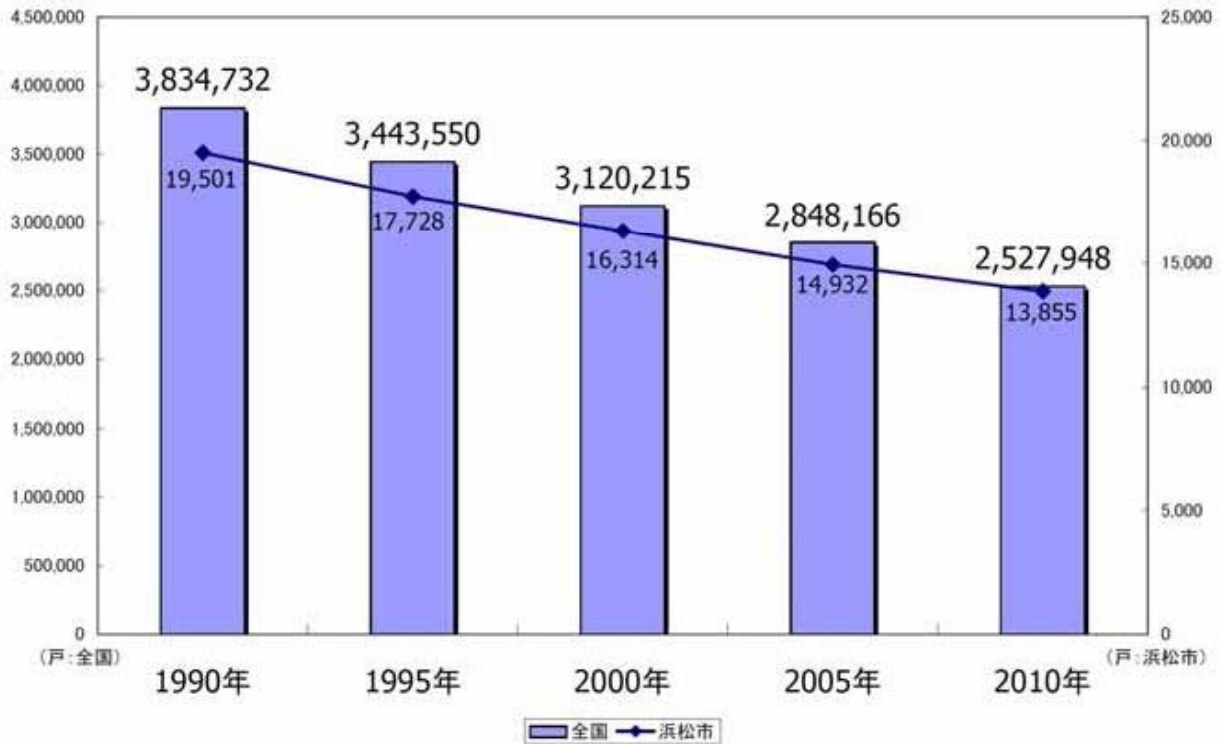


資料：経済産業省「海外事業活動基本調査」を基に作成

⑤ 農業ビジネスのチャンス拡大

⑤-1 全国と浜松の総農家数

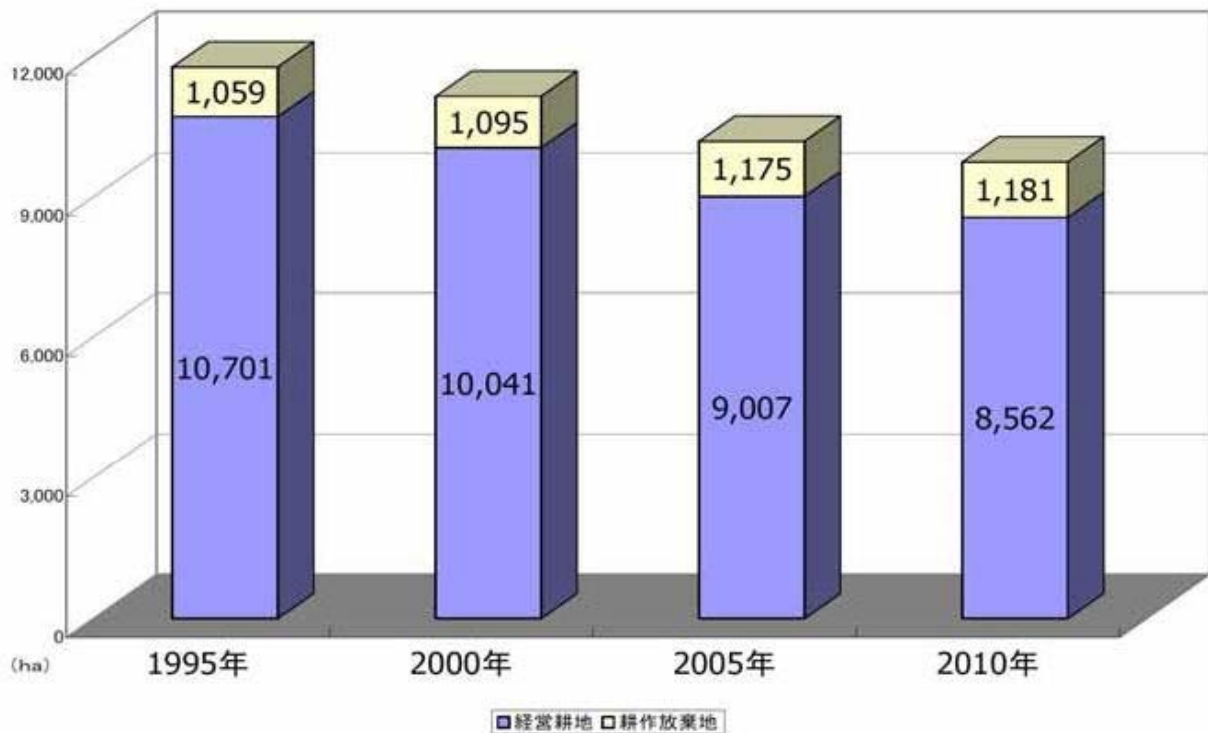
全国及び浜松市の総農家数は年々減少しており、1990年から2010年までに、国では約66%に減少し、浜松市では約71%に減少している。



資料：農業センサス結果報告書を基に作成

⑤-2 浜松市の経営耕地面積と耕作放棄地面積

経営耕地が減少するなか、耕作放棄地は微増している。



資料：農林業センサス結果報告書を基に作成

⑤-3 全国の一般法人の農業参入

全国の農業参入状況は、参入している全ての業態で増加しており、特に株式会社の参入が3年間で約7倍になっている。



資料：農林水産省 HP

⑤-4 浜松市の参入状況

浜松市内における一般法人の農業参入は徐々に増加している。平成25年4月30日現在、30社が参入し、経営面積は427,728haである。



資料：浜松市農林水産政策課

⑥ 地球環境問題やエネルギー問題

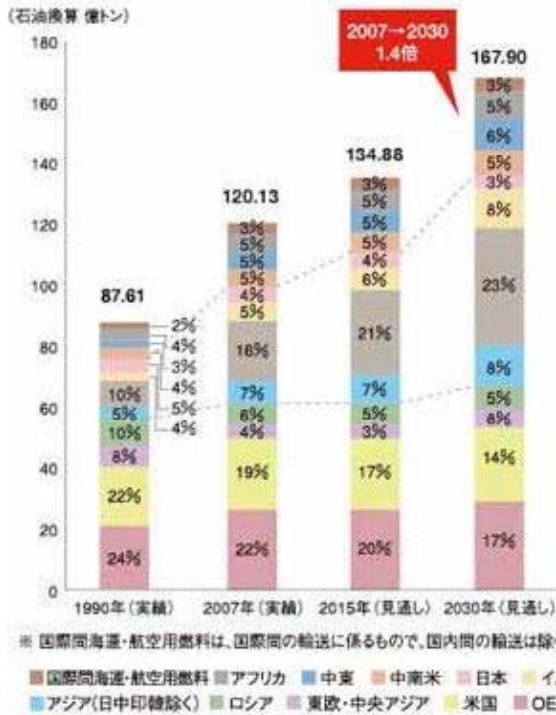
⑥-1 エネルギーの現状

(a) 世界のエネルギー需要等

2030年には世界のエネルギー消費量は2007年の約1.4倍に達する見込みであり、そのうち約半分はアジアによるものと予測される。

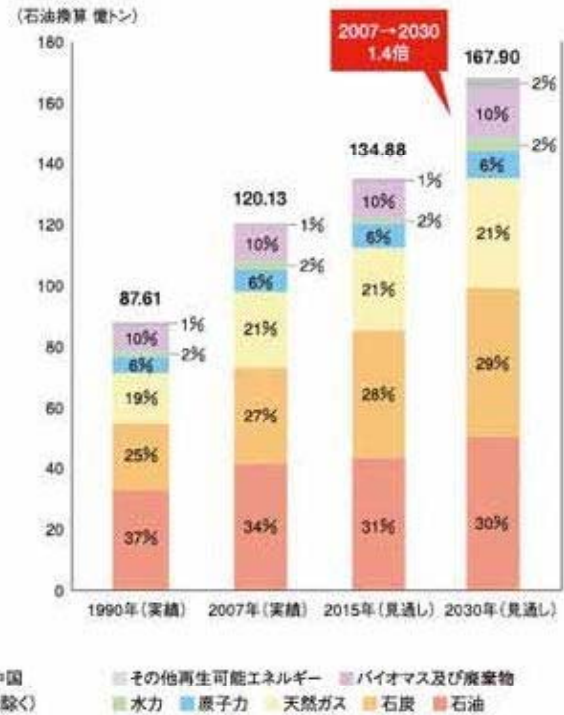
エネルギー消費はアジアを中心に急増

■ 世界の地域別エネルギー需要の見通し(図-16)
出所:IEA/World Energy Outlook 2009



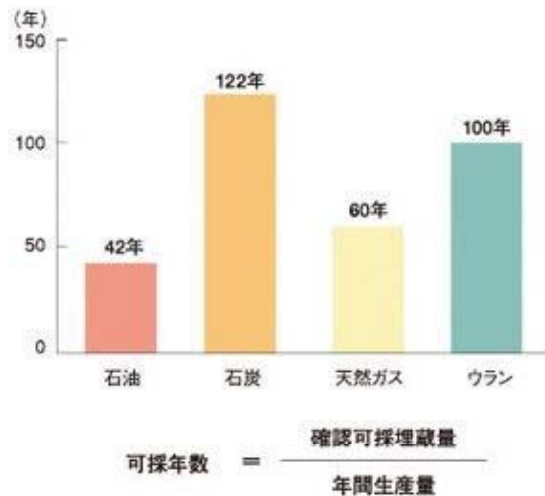
化石燃料の需要が増加

■ 世界の燃料別エネルギー需要の見通し(図-17)
出所:IEA/World Energy Outlook 2009



化石燃料は限りある資源

■ 世界のエネルギー資源可採年数2008(図-18)
出所:BP統計2009(石油、天然ガス、石炭:2008)
OECD/NEA-IAEA Uranium 2007(ウラン2007年)



資料：経済産業省資源エネルギー庁 HP

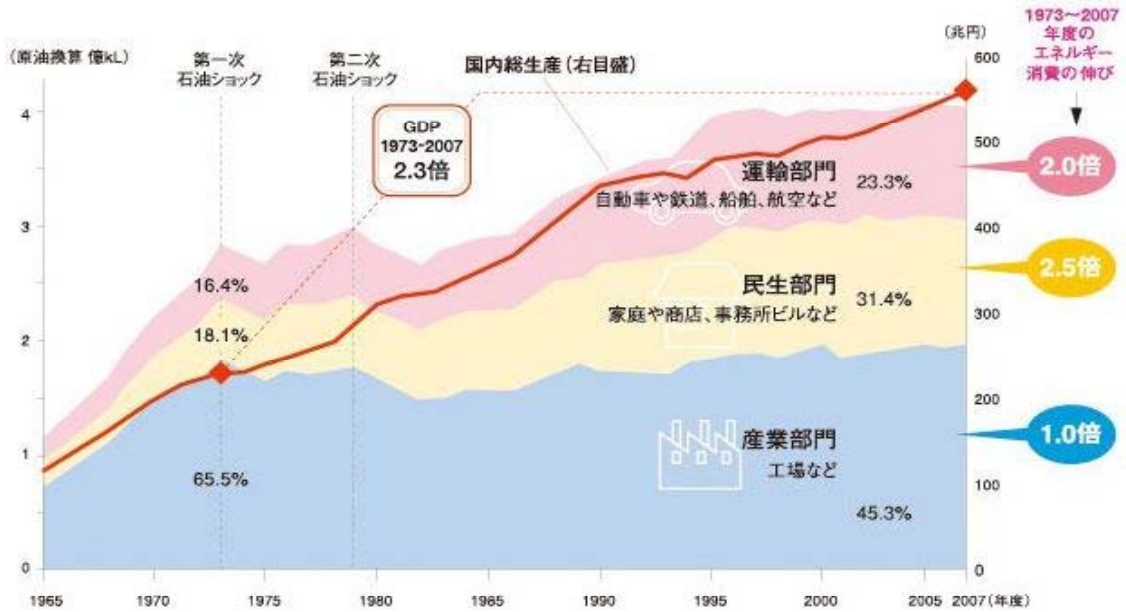
(b) 日本のエネルギー消費等

日本のエネルギー消費は、第1次石油ショック以降、産業部門は横ばいであるが、民生・運輸部門は増加している。しかし、ここ10年はすべての部門で横ばいである。

日本のエネルギー消費は、民生・運輸部門で増加

日本の最終エネルギー消費とGDPの推移(図-5)

出所:資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」、内閣府「国民経済計算年報」、(財)日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」

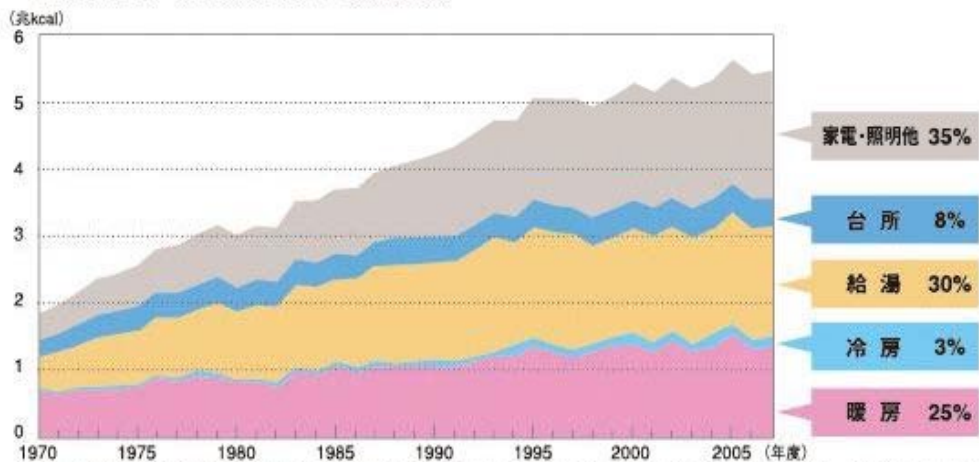


注1) GDPは1960年度までは旧SNA1990年基準、1960~1993年度までは新SNA1995年基準、1994年度以降は連鎖方式SNA。
注2) 原油換算とは、石炭や天然ガスなどの異なるエネルギー源を原油の量に置き換えた場合の量。

快適さを求めて家庭の電力消費は増加

家庭部門用途別エネルギー消費量(図-7)

出所:日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」



注) 家電・照明他とは、洗濯機、衣類乾燥機、布団乾燥機、テレビ、VTR、ステレオ、CDプレーヤー、DVDプレーヤー・レコーダー、掃除機、パソコン、温水洗浄便座等。

資料：経済産業省資源エネルギー庁 HP

⑥-2 省エネルギー、新エネルギー等

(a) 省エネルギー

■ 我が国の実質 GDP 当たりのエネルギー利用

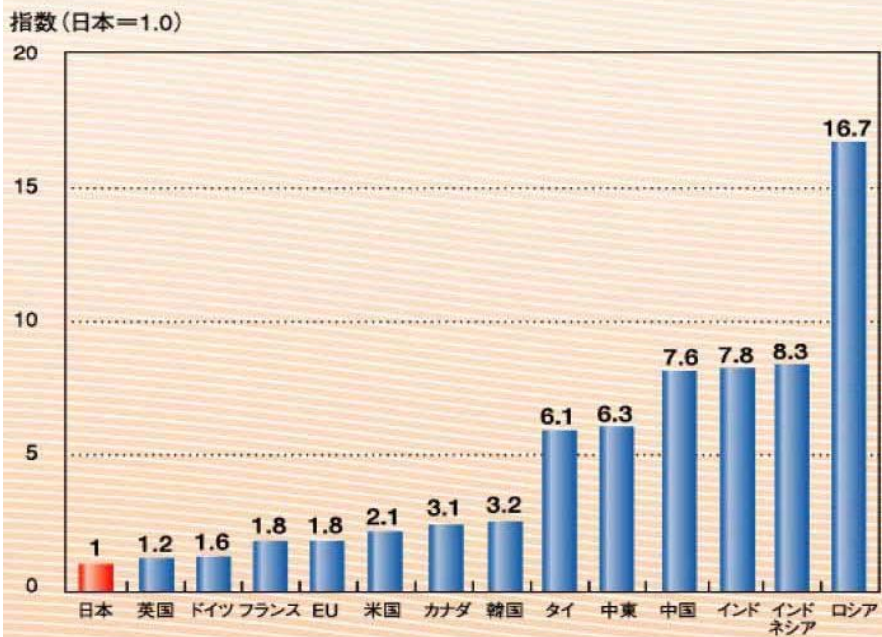


資料：資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」

世界最先端の日本の省エネ

■ 各国のGDP単位当たりの一次エネルギー供給量の比較 (2007)
(図-21)

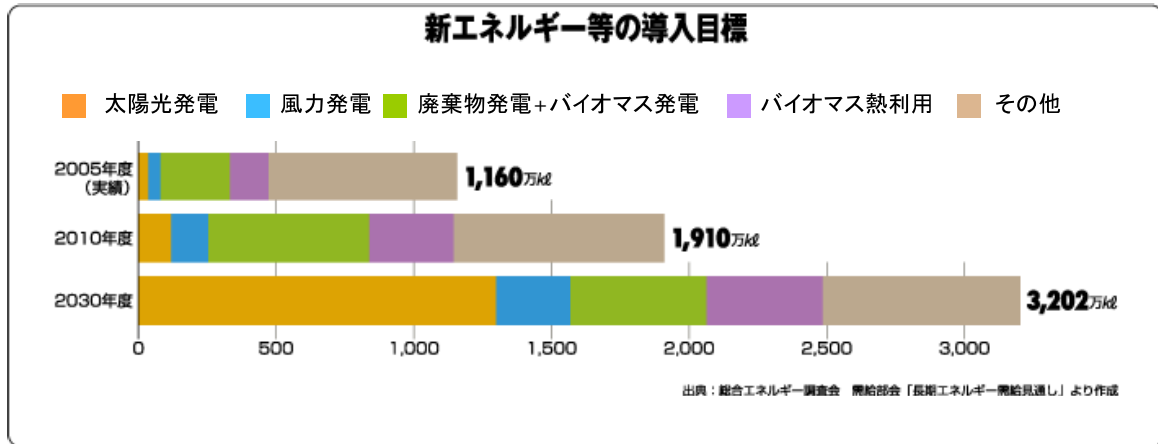
出所:IEA/Energy Balances of OECD/NON-OECD Countries 2009



注) 一次エネルギー消費量をGDPで除した数値を元に、日本を1とした場合の指数

(b) 新エネルギー

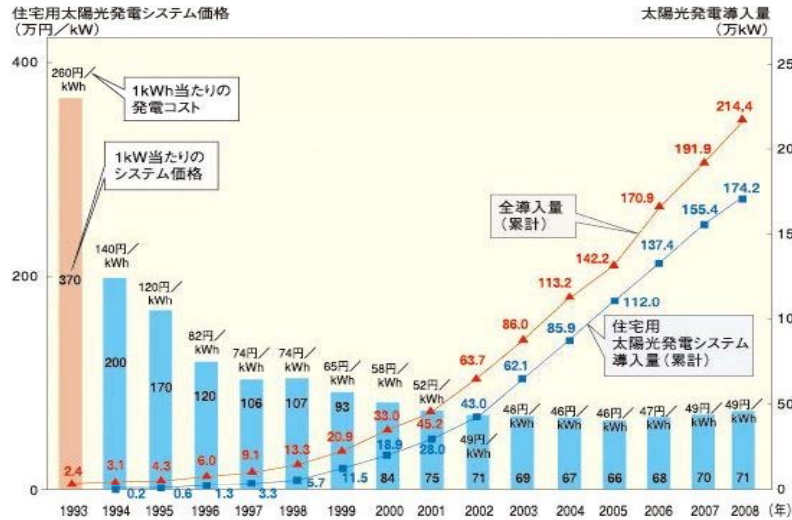
太陽光発電は発電コストが減少するとともに、導入量が増加する。風力発電も導入量が増加しているため、今後も新エネルギーの導入が進んでいくと思われる。



導入が進みコストは低下

■ 太陽光発電の導入量とシステム価格、発電コストの推移 (図-37)

出所：太陽光発電協会



導入量は着実に増加

■ 風力発電の導入量の推移 (図-39)

出所：NEDO調査データ

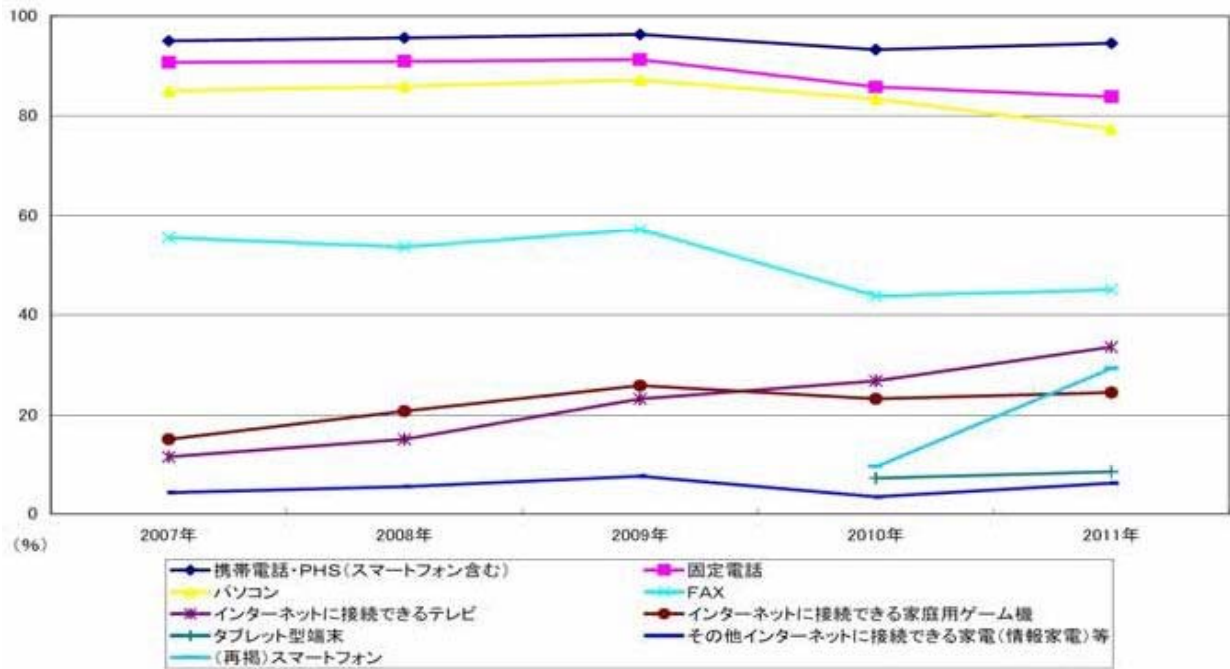


資料：経済産業省資源エネルギー庁 HP

⑦ 情報社会の高度化

⑦-1 主な情報通信機器の世帯保有状況

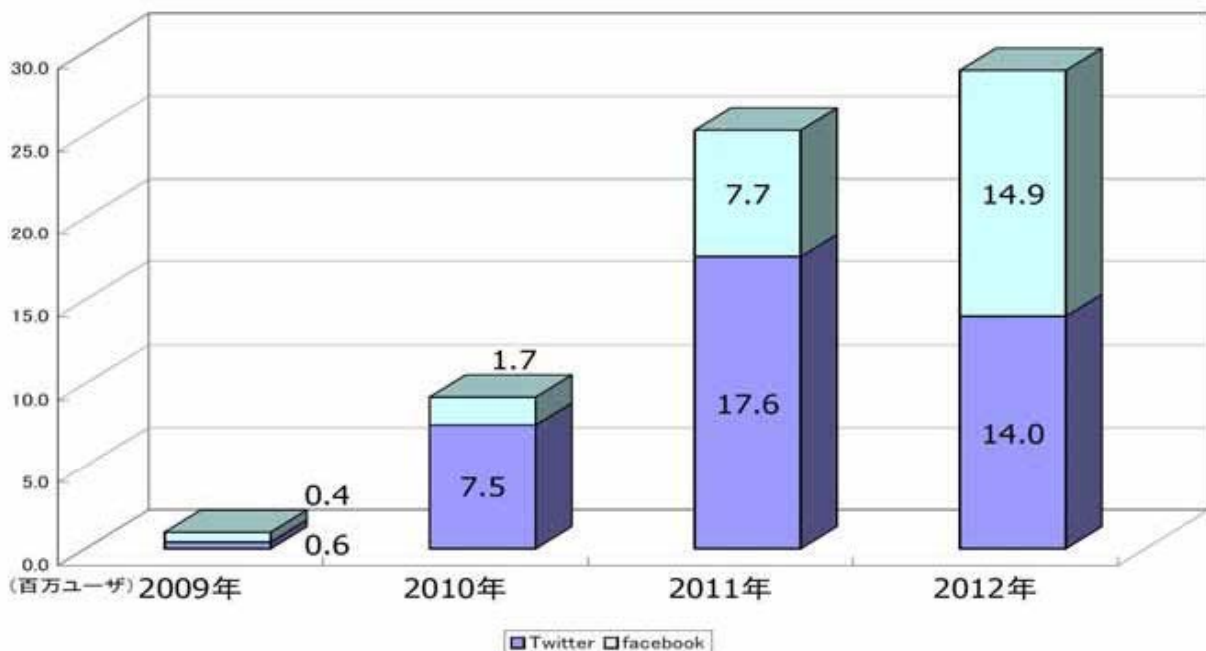
パソコンの保有世帯は 80%を切る一方、スマートフォンは急速に伸びている。



資料：総務省「平成 23 年通信利用動向調査」

⑦-2 ソーシャルメディア利用者数の推移(Twitter、facebook)

ソーシャルメディアの利用者数は増加している。



※ Twitter...インターネット上で 140 文字以内の短文を投稿できる情報サービス。

※ facebook...実名で現実の知り合いとインターネット上でつながり、交流するサービス。

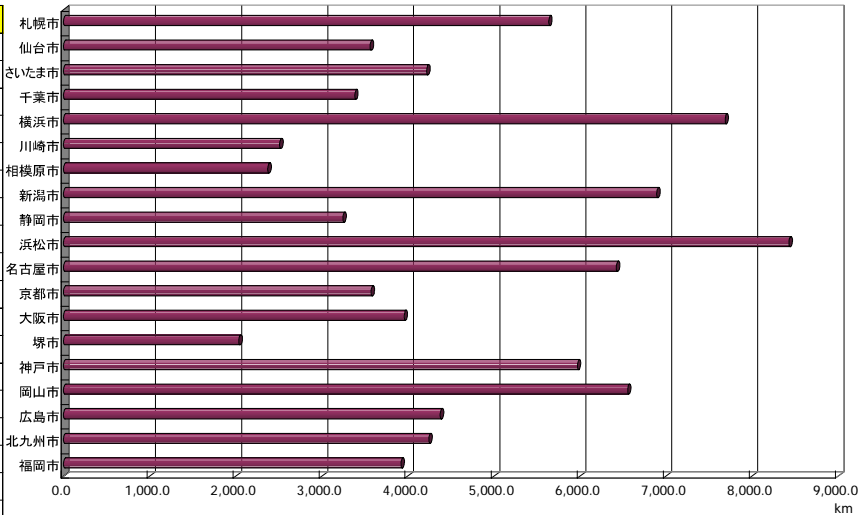
資料：総務省「平成 24 年版 情報通信白書」を基に作成

⑧ 公共施設や公共インフラの老朽化

⑧-1 政令指定都市の道路現況

浜松市が保有する道路の実延長は政令市の中で1位であり、今後の維持・更新費用の増大が見込まれる。

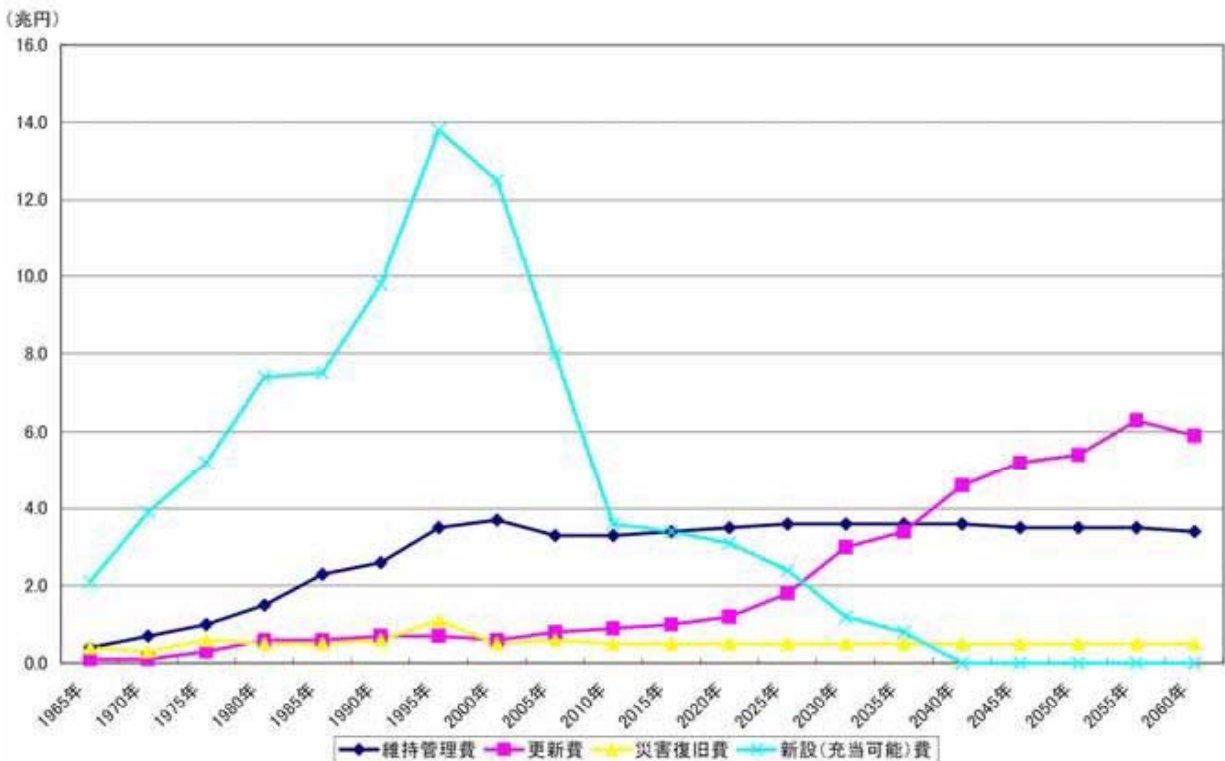
都市名	実延長(km)	ランキング
札幌市	5,641.2	7
仙台市	3,563.7	14
さいたま市	4,221.3	10
千葉市	3,384.4	15
横浜市	7,689.5	2
川崎市	2,513.2	17
相模原市	2,373.6	18
新潟市	6,895.4	3
静岡市	3,246.9	16
浜松市	8,432.1	1
名古屋市	6,425.8	5
京都市	3,574.5	13
大阪市	3,958.9	11
堺市	2,038.3	19
神戸市	5,973.2	6
岡山市	6,556.2	4
広島市	4,379.6	8
北九州市	4,246.3	9
福岡市	3,922.1	12



注:平成 23 年 4 月 1 日現在のデータで熊本市は含まれない
資料: 国土交通省「道路統計年報 2012」を基に作成

⑧-2 国土交通省所管のインフラ、維持・更新費用予測

新設費は 1990 年代後半をピークに減少傾向であるが、2060 年の更新費用は、2010 年の約 7 倍に増加する。



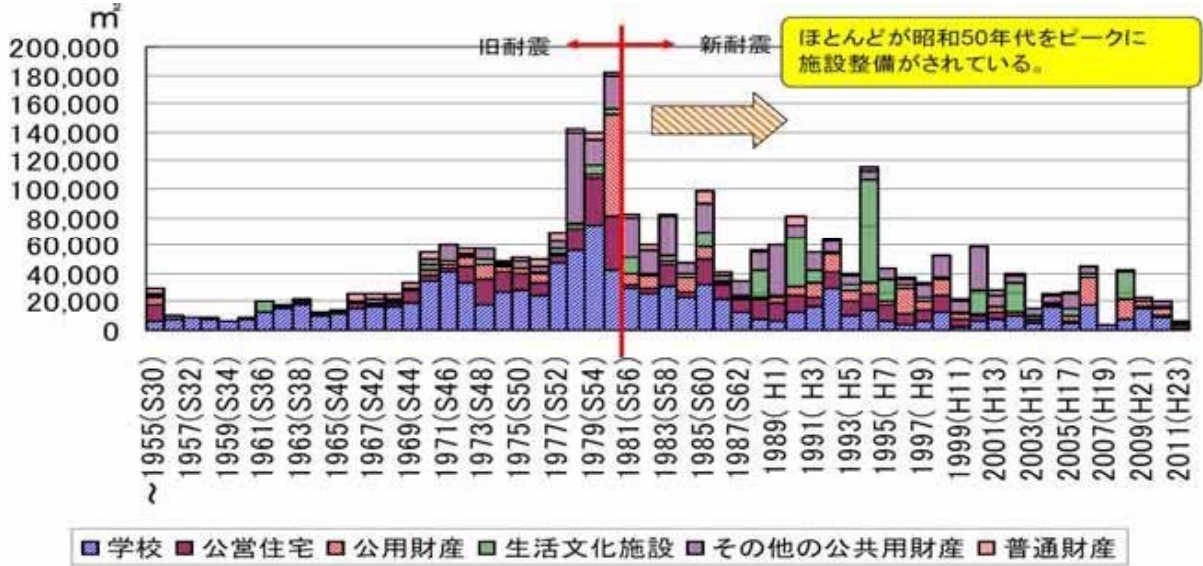
資料: 国土交通省「平成 24 年度国土交通白書」

⑧-3 浜松市の資産保有状況【建物】

平成 23 年度決算資料によると、浜松市保有の建物は、行政財産 1,552 施設、普通財産 142 施設で、合計 1,694 施設である。

(a) 築年別保有状況

昭和 50 年代をピークに多くの市の建物が建設されている。今後、旧耐震建物の耐震性能確保、大規模改修・更新費用の増加が見込まれる。

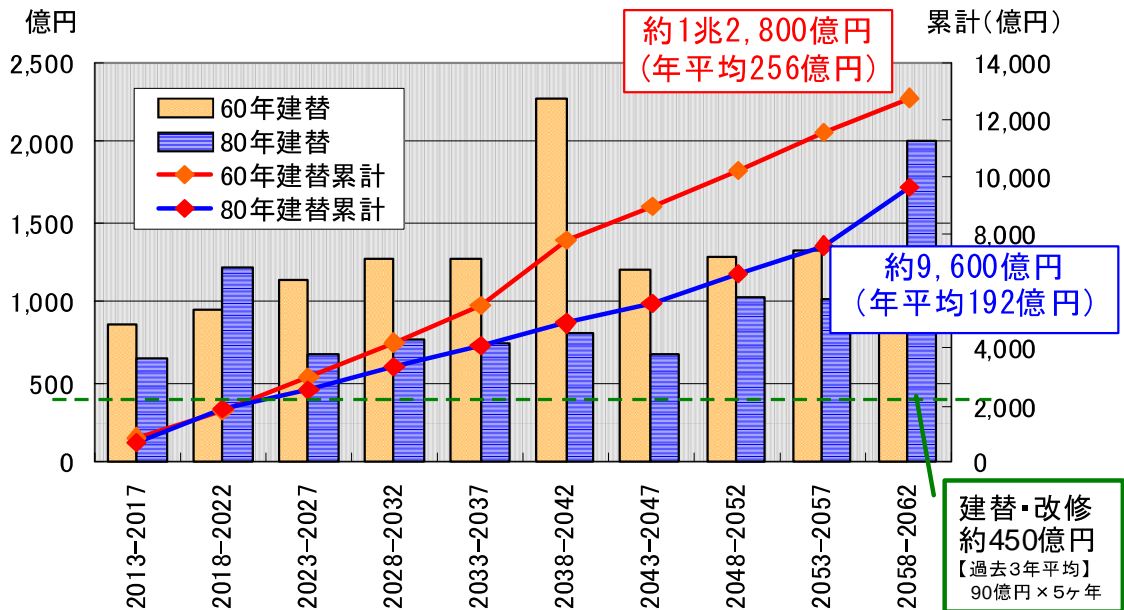


資料：浜松市資産経営課

(b) ライフサイクルコスト

今後 50 年間の建替・改修費は、建設後 60 年建て替えとした場合は年平均 256 億円、80 年建て替えとした場合でも年平均 192 億円掛かると試算している。

◆ 建築後60年建替と80年建替のそれぞれの50年間の累計



資料：浜松市資産経営課

⑨ 想定外を想定する

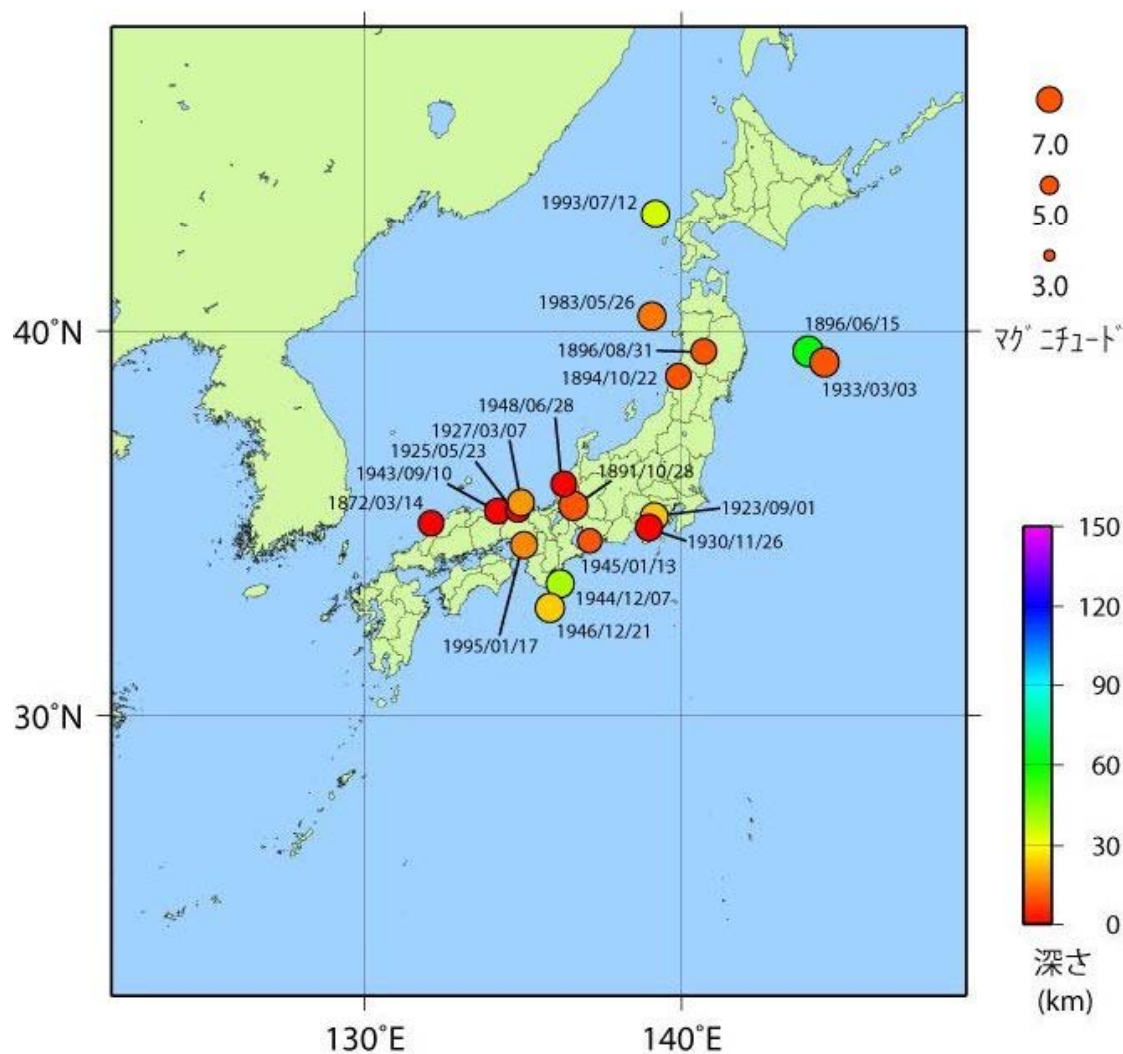
⑨-1 地震、津波等の自然災害

(a) 東海・東南海・南海地震

西暦	名称	南海トラフ地震発生領域	間隔
684年	白鳳地震	(東南海・)南海	—
887年	仁和地震	東南海・南海	203年
1096年	永長地震	東南海	209年
1099年	康和地震	南海	
1361年	正平(康安)地震	東南海・南海	262年
1498年	明応地震	東海・東南海・南海	137年
1605年	慶長地震	東南海・南海	107年
1707年	宝永地震	(東海・)東南海・南海	102年
1854年	安政地震	東海・東南海・南海	147年
1944年	昭和地震	東南海	90年
1946年	昭和地震	南海	

資料：地震調査委員会資料等を基に作成

(b) 明治以降 1995年までに、日本で100人以上の死者・行方不明者を出した地震・津波



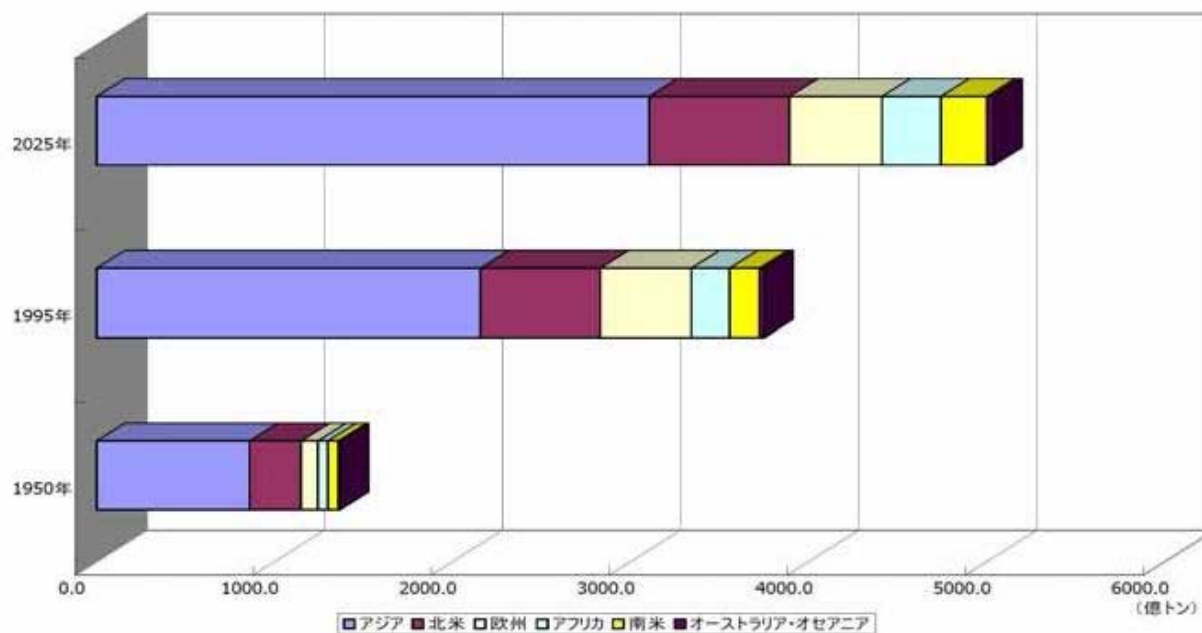
資料：気象庁 HP

⑨-2 急増する水使用量

単位：億トン

	1950年	1995年	2025年
アジア	860.0	2157.0	3104.0
北米	289.0	672.0	788.0
欧州	93.8	511.0	519.0
アフリカ	56.0	215.0	331.0
南米	59.4	166.5	257.0
オーストラリア・オセアニア	10.3	30.5	39.6

資料：国土交通省 HP を基に作成



⑨-3 日本の社会・経済に影響を与えた出来事など

1954年 (S29)		神武景気(~57年)
1957年 (S32)		なべ底不況(~58年)
1958年 (S33)		岩戸景気(~61年)
1960年 (S35)	・ ベトナム戦争(~75年) ・ カラーテレビの本放送開始	
1961年 (S36)		転換型不況(~62年)
1962年 (S37)		オリンピック景気(~64年)
1963年 (S38)	・ 東名高速道路開通	
1964年 (S39)	・ 東京オリンピック開催 ・ 東海道新幹線開通	構造不況(~65年)
1965年 (S40)		いざなぎ景気(~70年)
1970年 (S45)	・ 日本万国博覧会(大阪万博)開催	ニクソン不況(~71年)
1971年 (S46)	・ 第2次ベビーブーム(~74年)	列島改造景気(~73年)

1972年 (S47)	・札幌冬季オリンピック開催 ・沖縄返還、日中国交正常化	
1973年 (S48)	・第1次オイルショック ・円が変動相場制に移行	第1次石油危機不況 (~75年)
1975年 (S50)		安定成長景気(~77年)
1977年 (S52)		ミニ不況 公共投資景気(~80年)
1978年 (S53)	・成田空港開港 ・自動車の輸入関税を完全撤廃	
1979年 (S54)	・第2次オイルショック ・ソ連のアフガン侵攻(~89年)	
1980年 (S55)	・イラン・イラク戦争(~88年)	第2次石油危機不況 (~83年)
1983年 (S58)		ハイテク景気(~85年)
1985年 (S60)	・プラザ合意 ・NTTと日本たばこ産業(JT)の発足	円高不況(~86年)
1986年 (S61)	・ウルグアイ・ラウンド(~95年)	バブル景気(~91年)
1987年 (S62)	・国鉄民営化 ⇒ JRの発足 ・ブラックマンデー ⇒ NY株式市場で株価大暴落	
1988年 (S63)	・ソウルオリンピック開催 ・リクルート事件	
1989年 (H1)	・消費税法施行【3%】	
1990年 (H2)	・イラクのクウェート侵攻	
1991年 (H3)	・湾岸戦争 ・牛肉・オレンジの輸入自由化	バブル崩壊(~93年)
1992年 (H4)	・欧州連合(EU)成立	
1993年 (H5)		カンフル景気(~97年)
1995年 (H7)	・世界貿易機関(WTO)発足 ・阪神淡路大震災	
1996年 (H8)	・コメ自由化	
1997年 (H9)	・アジア通貨危機 ・消費税【3%⇒5%】 ・北海道拓殖銀行、山一証券、三洋証券倒産	列島総不況(~99年)
1998年 (H10)	・長野冬季オリンピック開催 ・日本長期信用銀行、日本債権信用銀行の国有化 ・日本版金融ビッグバンスタート ⇒ 「金融システム改革のための関係法律の整備等に関する法律(金融システム改革法)」の成立	
1999年 (H11)	・日本銀行ゼロ金利政策実施	IT景気(~00年)
2000年 (H12)	・平成の大合併	デフレ不況(~02年)
2001年 (H13)	・米国同時多発テロ事件 ・アメリカ等のアフガン侵攻(~現在) ・中国のWTO加盟	
2002年 (H14)	・ペイオフ(預金保護)解禁 ・欧州単一通貨「ユーロ」が現金通貨として流通開始	いざなぎ景気(~08年)
2003年 (H15)	・イラク戦争 ・日本郵政公社発足	
2004年 (H16)	・新潟中越地震	

2005年 (H17)	・ 愛知万国博覧会「愛・地球博」開催 ・ 道路公団民営化	
2007年 (H19)	・ 郵政民営化	
2008年 (H20)	・ 北京オリンピック開催 ・ リーマンショック	世界同時不況(~09年)
2009年 (H21)		
2011年 (H23)	・ 東日本大震災	
2014年 (H26)	・ 消費税【5%⇒8%】	

資料：浜松市企画課



浜松市
HAMAMATSU CITY

「30年後の浜松市の重要な分野～柱の選定～」

委員からの意見とりまとめ

「柱」の数 41 項目

「理想の姿」の数 220 項目 (再掲含む)

No.	分野	掲載数	No.	分野	掲載数
1	産業	38 項目	22	研究	6 項目
2	農林水産	1 項目	23	児童福祉	2 項目
3	農林業振興	3 項目	24	子育て	2 項目
4	農業	1 項目	25	保育	1 項目
5	林業	1 項目	26	こども家庭	3 項目
6	観光	3 項目	27	メンタルヘルス	3 項目
7	労働	22 項目	28	多文化共生	2 項目
8	エネルギー	2 項目	29	スポーツ	3 項目
9	新エネルギー	2 項目	30	都市生活	1 項目
10	都市整備(都市計画、都市基盤)	4 項目	31	人口	1 項目
11	建設	2 項目	32	市民協働	3 項目
12	住宅	2 項目	33	ボランティア	2 項目
13	交通	3 項目	34	行政	4 項目
14	健康福祉	7 項目	35	施設	1 項目
15	健康	6 項目	36	情報	1 項目
16	福祉	12 項目	37	まちづくり	1 項目
17	高齢者	4 項目	38	地域	7 項目
18	障がい者	3 項目	39	災害対策	1 項目
19	医療	6 項目	40	安心安全	1 項目
20	環境	18 項目	41	全体	2 項目
21	教育	33 項目	のべ(再掲含む)		220 項目

1 柱 産業	
☆理想の姿	
38	
1	分散型電源をスマートグリッドで束ねたエネルギー自給社会となっている。【新エネルギーへ再掲】
2	全ての住宅が準自立型住宅となっている。【新エネルギー、住宅へ再掲】 (住宅の性能としては、断熱・気密だけでなく不在時の開放が重要)
3	太陽電池を積んだ自動操縦の小型電気自動車が移動の中心手段となっている。【交通へ再掲】
4	ゴミ処理、資源回収、エネルギー回収が一体化されている。【環境へ再掲】
5	浜松市製の人工衛星が完成している。【教育へ再掲】
6	防潮堤完成により、これをPRすることで、人が浜松に集まる。【観光へ再掲】
7	年間開業件数が、地方都市でNo.1になっている。【労働へ再掲】
8	Uターン率が、地方都市でNo.1になっている。【労働へ再掲】
9	都市環境がハイテク化され、世界から視察がくるようになっている。【観光へ再掲】
10	ベンチャー企業が、アジアで最も仕事がしやすい都市になっている。【労働へ再掲】
11	サテライト・オフィスの件数が、全国でNo.1になっている。【労働へ再掲】
12	各地にある公共施設が地域社会に欠かせない存在になっている。【都市整備(都市計画、都市基盤)、施設、市民協働、教育へ再掲】
13	木材関連が、浜松の主要産業の一角を占めている。
14	浜松が人口も増加し、国土縮図型の中核都市として発展している。
15	再生可能エネルギーである太陽光、風力、小規模水力、バイオマスなどが全消費エネルギーの半分を賄っている。
16	新たな社会ニーズに対応した多様なビジネスが数多く生まれ、点から線、面へと広がり常に新しい産業が創出される。
17	活気あふれる中心市街地と商店街。
18	新たな価値観を生み出す創造的文化産業の創出される。例えば音をキーワードとして。
19	浜松が滞在型観光都市になっている。
20	浜松市内で資源が循環する社会。
21	日本の産業界のリーダーがでる。日本一の人づくり都市。【教育へ再掲】
22	4年に一度、浜松市街地一般道路を使ってバイクレース、もしくはモーターレースが開催されている(一般車を使ったレース。)
23	世界の最先端自動車やバイクなどのコンテストが行われている。
24	自動車やバイクに関わる博物館があり、世界中の人が観光に訪れている。

25	定年を迎えた人材の活用。【労働、市民協働へ再掲】
26	浜松から発信(進)する新産業の創設。【労働、研究へ再掲】
27	光の先端都市浜松。【教育、研究へ再掲】
28	ワールドカップ in 浜松。【スポーツへ再掲】
29	国際会議の誘致。【教育、研究へ再掲】
30	ノーベル賞受賞者の育成。【教育、研究へ再掲】
31	安心して暮らせる老後。【福祉へ再掲】
32	エネルギーの地産地消。【エネルギーへ再掲】
33	ベンチャー企業の育成、樹立。【労働、研究へ再掲】
34	食料の自給自足、地産地消、6次産業化。【農業へ再掲】
35	森林の育成。【林業へ再掲】
36	新東名沿線の「内陸フロンティア」。物流拠点だけでなく、パークアンドライド駐車場を設けた「横の天浜線と縦の遠鉄電車」で観光も。【都市整備(都市計画、都市基盤)へ再掲】
37	平日でもまちなかが人でにぎわっている。
38	NPOと行政、産業、大学などの研究機関が連携し、環境問題や福祉問題その他社会問題に積極的に取り組んで、福祉・環境イノベーションとして浜松から全国に発信している。【教育、福祉、環境、市民協働へ再掲】

2 柱 農林水産

☆理想の姿 1

1	リタイア後に元気な方が農業就労出来るようなスキーム作り。【労働へ再掲】
---	-------------------------------------

3 柱 農林業振興

☆理想の姿 3

1	中山間地に産業が生まれ女性や若者が働く事ができる。
2	ほぼ全ての学校の机や椅子が地元の木で作られている。公共施設が木造である。
3	中心部に木造高層建築がある。

4 柱 農業

☆理想の姿 1

1	【再掲】食料の自給自足、地産地消、6次産業化。
---	-------------------------

5 柱 林業

☆理想の姿 1

1	【再掲】森林の育成。
---	------------

6 柱 観光

☆理想の姿 3

1	【再掲】防潮堤完成により、これをPRすることで、人が浜松に集まる。
2	【再掲】都市環境がハイテク化され、世界から視察がくるようになっている。
3	ウォーキングコースが、最も充実した地方都市になっている。【健康へ再掲】

7 柱 労働

☆理想の姿 22

1	【再掲】年間開業件数が、地方都市でNo.1になっている。
2	人口流入率が、全国でNo.1になっている。【人口へ再掲】
3	【再掲】Uターン率が、地方都市でNo.1になっている。
4	【再掲】ベンチャー企業が、アジアで最も仕事がしやすい都市になっている。
5	【再掲】サテライト・オフィスの件数が、全国でNo.1になっている。
6	時短勤務が当然となり育児・介護への理解が進む(ワークライフバランスの推進)。
7	正規・非正規雇用に関わらずワークライフバランス支援が行われる。
8	浜松市役所内の女性管理職が4割を超える。
9	市内企業の女性管理職が3割を超える。
10	全ての就労希望者に、適性を見極めてアドバイスするアドバイザー・カウンセラーがいる。(ニートや中途退職者への就労支援)【福祉へ再掲】
11	学童指導員の身分が保証され、働きやすい環境である。
12	小学1年生までの子どもがいる親はフレキシブルな働き方をしている(パート⇄正社員)。
13	託児施設関係者が働きやすい環境で長期間働いている。
14	育休復帰時、3ヶ月猶予期間に設定し、徐々にフルタイムに復帰している。
15	性別に関係なく、希望者が管理職を目指している。
16	父親が時短制度を活用している。
17	父親、母親が短期間でも同時期に育休をとっている。
18	【再掲】定年を迎えた人材の活用。

19	【再掲】浜松から発信(進)する新産業の創設。
20	【再掲】ベンチャー企業の育成、樹立。
21	【再掲】リタイア後に元気な方が農業就労出来るようなスキーム作り。
22	障害があっても、望んだ仕事につき、自分の望む居住環境を選ぶことが出来る。【障がい者へ再掲】

8 柱 エネルギー

☆理想の姿 2

1	【再掲】エネルギーの地産地消。
2	長い日照時間・遠州のからっかぜ等、自然エネルギーを利用した発電日本一に。【環境へ再掲】

9 柱 新エネルギー

☆理想の姿 2

1	【再掲】分散型電源をスマートグリッドで束ねたエネルギー自給社会となっている。
2	【再掲】全ての住宅が準自立型住宅となっている。 (住宅の性能としては、断熱・気密だけでなく不在時の開放が重要)

10 柱 都市整備(都市計画、都市基盤)

☆理想の姿 4

1	建築物もZEB(ゼロ・エネルギー・ビルディング)として建築されるのが当然となっている。
2	【再掲】各地にある公共施設が地域社会に欠かせない存在になっている。
3	【再掲】新東名沿線の「内陸フロンティア」。物流拠点だけでなく、パークアンドライド駐車場を設けた「横の天浜線と縦の遠鉄電車」で観光も。
4	安全で円滑な交通基盤の整備 (歩行者・自転車・セニアカーの専用道)

11 柱 建設

☆理想の姿 2

1	木造三階建て庭付きタウンハウス・テラスハウスが主流となっている。【住宅へ再掲】
2	コンパクトシティ化されている。

12 柱 住宅

☆理想の姿 2

1	【再掲】全ての住宅が準自立型住宅となっている。 (住宅の性能としては、断熱・気密だけでなく不在時の開放が重要)
2	【再掲】木造三階建て庭付きタウンハウス・テラスハウスが主流となっている。

13 柱 交通

☆理想の姿

3

1	【再掲】太陽電池を積んだ自動操縦の小型電気自動車が移動の中心手段となっている。
2	車歩分離が進み、安心して街中を歩くことができる。
3	今あるバスや電車以外でも、郊外への交通が便利に行き届いている。

14 柱 健康福祉

☆理想の姿

7

1	高齢者が自然と相互に支えあえるような仕組みが出来ている。
2	足の不自由な人が、最も住み心地のいい地方都市になっている。
3	寝たきりの人の割合が、最も少ない地方都市になっている。
4	健康な人の割合が、最も多い地方都市になっている。
5	住み慣れた自宅で経済的な不安もなく、医療・介護を受け生活することができる。
6	高齢者にとってやさしい地域社会となっている。
7	医者のお日診療推奨。【医療、こども家庭へ再掲】

15 柱 健康

☆理想の姿

6

1	健康寿命が断トツの日本一になり、そして、まちなかに人が戻ってきた。【都市生活へ再掲】
2	【再掲】ウォーキングコースが、最も充実した地方都市になっている。
3	足の不自由な人が、最も住み心地のいい地方都市になっている。
4	寝たきりの人の割合が、最も少ない地方都市になっている。
5	健康な人の割合が、最も多い地方都市になっている。
6	健康長寿日本一

16 柱 福祉

☆理想の姿

12

1	学童保育は小学校6年生まで保障される。
2	ひとり親家庭への支援が充実する。
3	子育て支援は子育て支援(子どもが健全に育つための支援)となる。
4	ジョブコーチが多くの企業に配置されている(障がい者の就労)。

5	外国人に対する保険制度が整備されている。
6	【再掲】全ての就労希望者に、適性を見極めてアドバイスするアドバイザー・カウンセラーがいる。(ニートや中途退職者への就労支援)
7	元気な高齢者による地域サポートネットが充実している。
8	老人ホーム、幼保育施設が一体となった交流施設が町にある(独居、核家族交流)【教育へ再掲】
9	【再掲】安心して暮らせる老後。
10	地区社会福祉協議会が充実し、住民による地域独自の福祉活動が活発に行われている。【地域、まちづくりへ再掲】
11	地域の福祉活動に参加する住民が現在の2倍になっている。【ボランティア、地域へ再掲】
12	【再掲】NPOと行政、産業、大学などの研究機関が連携し、環境問題や福祉問題その他社会問題に積極的に取り組んで、福祉・環境イノベーションとして浜松から全国に発信している。

17 柱 高齢者

☆理想の姿

4

1	元気な高齢者がボランティアとして地域で活躍している。【ボランティアへ再掲】
2	地区ごとに住民と専門職が協働して「福祉なんでも相談所」を開設し、住民生活に安心を提供している。【障がい者、子育て、地域へ再掲】
3	小規模多機能型居宅介護施設が地域に点在し、施設入所をさせることなく、家族が安心して在宅介護を続けられ、お年寄りも住み慣れたまちで暮らし続けられる。【まちづくりへ再掲】
4	日ごろの福祉活動によりつながりが形成され、「災害時要援護者」といわれる人々が安心して生活できる。【障がい者、災害対策へ再掲】

18 柱 障がい者

☆理想の姿

3

1	【再掲】地区ごとに住民と専門職が協働して「福祉なんでも相談所」を開設し、住民生活に安心を提供している。
2	【再掲】障害があっても、望んだ仕事につき、自分の望む居住環境を選ぶことが出来る。
3	【再掲】日ごろの福祉活動によりつながりが形成され、「災害時要援護者」といわれる人々が安心して生活できる。

19 柱 医療

☆理想の姿

6

1	医療機関と連携してスポーツ科学が発展し、国内外から選手がトレーニングに訪れている。【スポーツへ再掲】
2	館山寺地区に、出産に関わるケア施設、終末期の患者が尊厳を大切にできる医療施設がある。
3	テーラーメイド医療(個別医療)の確立、再生医療、最先端医療。【研究へ再掲】
4	障害をお持ちの方が安心して暮らせる街。【地域へ再掲】
5	【再掲】医者の土日診療推奨。
6	入院中心の精神科医療が、地域中心の精神科医療になっている。【地域へ再掲】

20 柱 環境

☆理想の姿

18

1	【再掲】ゴミ処理、資源回収、エネルギー回収が一体化されている。
2	身近に豊かな自然環境が保持されている。
3	市の中心部に緑が多くなった(現在の5倍)。
4	緑の多い多目的利用の公園が増え、市民の憩いの場となる
5	安心して子どもが遊んだり、大人が運動したりできる公園がコンビニの数よりたくさんある。【子育てへ再掲】
6	子供たちが笑顔で遊べる公園。【教育へ再掲】
7	バイオマスエネルギーが市民の生活の中に浸透している。
8	生物が適正な頭数を保たれている。人間との住み分けが出来ている。
9	山に広葉樹林が増えている。
10	生活に必要な空気、水がしっかりと守られている。
11	浜松が環境都市として日本をリードしている。
12	【再掲】長い日照時間・遠州のからっかぜ等、自然エネルギーを利用した発電日本一に。
13	若者の雇用や、意見を発散できるような場所(スピーチパーク的なもの)がある。
14	少し休めるような公園がまちなかにある。
15	小学校を森や小川の近くに作り、子ども達が自由に遊べる環境が整っている。【子育てへ再掲】
16	子育てのための環境が整備され、全国の合計特殊出生率が全国のベストテンに入っている。【子育てへ再掲】
17	【再掲】NPOと行政、産業、大学などの研究機関が連携し、環境問題や福祉問題その他社会問題に積極的に取り組んで、福祉・環境イノベーションとして浜松から全国に発信している。
18	エネルギー(電気)自給率が100%になっている。

21 柱 教育

☆理想の姿

33

1	子供が伸び伸びと、かつ必要な知識を身につけられる環境が整っている。
2	【再掲】浜松市製の人工衛星が完成している。
3	【再掲】各地にある公共施設が地域社会に欠かせない存在になっている。
4	【再掲】日本の産業界のリーダーがでる。日本一の人づくり都市。
5	幼稚園・保育園が一元化されている。

6	公立幼保園で質の高い保育サービスが行われる。
7	教員は教育(授業・生徒とのコミュニケーション)に専念できる。
8	多様化する個性・能力に即した教育が行われる(少人数制・TT(Team Teaching))。
9	外国につながる子どもたちへの日本語等の教育支援が充実する。
10	バイリンガルが教育の現場で活躍できる(有能な人材確保・継続的雇用保障)。
11	メディア環境の整備に伴い未成年者へのフィルタリングも確実にされる。【情報へ再掲】
12	各自治区、もしくは学区に一つ無料塾(経済格差のある子どもが学べる場所)がある。
13	無料塾は専門機関(児童相談所、弁護士、医療機関など)と連携しており、個別に必要な支援をうけられる。
14	各自治区、もしくは学区に一つ子ども館(子育て支援拠点、学童保育)がある。【子育てへ再掲】
15	親も子どもも安心して安全に過ごせる学童保育の仕組みがある。(運営:市事業もしくは民間、NPO法人など)(適正な環境の確保)【児童福祉へ再掲】
16	学童が生活保育の場であるとともに、教育的支援も受けられる場所である。【児童福祉へ再掲】
17	子どもから大人まで職業体験ができるしくみがある(海外留学するように企業や自治体に短期留学できる)。
18	【再掲】老人ホーム、幼保育施設が一体となった交流施設が町にある(独居、核家族交流)。
19	幼～高校、大学まで無償で学校に通っている。
20	発達支援教育を受けられたり相談できたりする場がある。
21	地域-学校、教師-保護者-子どもの信頼関係が高く、体罰、いじめ問題が0、もしくは改善に協力体制で取り組んでいる。
22	フリースクールが精査され、個人に合った教育を誰もが受けている。
23	【再掲】子供たちが笑顔で遊べる公園。
24	【再掲】光の先端都市浜松。
25	地域の協力ある教育環境の樹立。【地域へ再掲】
26	【再掲】国際会議の誘致。
27	【再掲】ノーベル賞受賞者の育成。
28	不登校やひきこもり経験の児童・生徒であっても、適切な支援が行われ、適切な就学支援を受けたり、望んだ仕事につくことができる。【子育て、メンタルヘルスへ再掲】
29	精神疾患やメンタルヘルスの予防教育が普及している。【メンタルヘルスへ再掲】
30	【再掲】NPOと行政、産業、大学などの研究機関が連携し、環境問題や福祉問題その他社会問題に積極的に取り組んで、福祉・環境イノベーションとして浜松から全国に発信している。
31	子育てをするなら浜松市がいいと日本中、世界中の人からいわれている。【保育へ再掲】

32	『やらまいか』精神が復活したまちになっている。
33	地域の絆が世界一(『支え合いのまち』、『育ち合いのまち』)といわれている。

22 柱 研究

☆理想の姿

6

1	【再掲】テーラーメイド医療(個別医療)の確立、再生医療、最先端医療。
2	【再掲】浜松から発信(進)する新産業の創設。
3	【再掲】光の先端都市浜松。
4	【再掲】国際会議の誘致。
5	【再掲】ノーベル賞受賞者の育成。
6	【再掲】ベンチャー企業の育成、樹立。

23 柱 児童福祉

☆理想の姿

2

1	【再掲】親も子どもも安心して安全に過ごせる学童保育の仕組みがある。(運営:市事業もしくは民間、NPO法人など)(適正な環境の確保)
2	【再掲】学童が生活保育の場であるとともに、教育的支援も受けられる場所である。

24 柱 子育て

☆理想の姿

8

1	【再掲】各自治区、もしくは学区に一つ子ども館(子育て支援拠点、学童保育)がある。
2	【再掲】安心して子どもが遊んだり、大人が運動したりできる公園がコンビニの数よりたくさんある。
3	いつでもだれでも安価に利用できる託児施設がある。
4	(こどもの)ショートステイやトワイライトステイを実施できる事業所が増加し、区役所単位に3か所となる。【安心安全へ再掲】
5	【再掲】地区ごとに住民と専門職が協働して「福祉なんでも相談所」を開設し、住民生活に安心を提供している。
6	【再掲】小学校を森や小川の近くに作り、こども達が自由に遊べる環境が整っている。
7	【再掲】子育てのための環境が整備され、全国の合計特殊出生率が全国のベストテンに入っている。
8	【再掲】不登校やひきこもり経験の児童・生徒であっても、適切な支援が行われ、適切な就学支援を受けたり、望んだ仕事につくことができる。

25 柱 保育

☆理想の姿

1

1	【再掲】子育てをするなら浜松市がいいと日本中、世界中の人からいわれている。
---	---------------------------------------

26 柱		こども家庭
☆理想の姿		3
1	「小学生以下は、市が関与する動物園・フラワーパーク・フルーツパークの入園料が無料」、「休耕田を利用した大規模な菜の花・ひまわり・コスモス等の植栽」といった、休日に無料で楽しめるようなテーマパークの創造	
2	【再掲】医者のお休みの日診療推奨。	
3	里親の数が現在の3倍となり、各中学校区に複数の里親家庭がある。【地域へ再掲】	

27 柱		メンタルヘルス
☆理想の姿		3
1	【再掲】不登校やひきこもり経験の児童・生徒であっても、適切な支援が行われ、適切な就学支援を受けたり、望んだ仕事につくことができる。	
2	自殺率が国の値の半分以下になっている。	
3	【再掲】精神疾患やメンタルヘルスの予防教育が普及している。	

28 柱		多文化共生
☆理想の姿		2
1	外国につながる子どもたちへの母語支援活動が行われる。	
2	外国につながる文化的イベントが増える。	

29 柱		スポーツ
☆理想の姿		3
1	アマチュアスポーツ(ビーチバレー、フットサル、ビーチテニスなど)の大会が行われ、有力選手の中に浜松出身者が多くいる。	
2	【再掲】医療機関と連携してスポーツ科学が発展し、国内外から選手がトレーニングに訪れている。	
3	【再掲】ワールドカップ in 浜松。	

30 柱		都市生活
☆理想の姿		1
1	【再掲】健康寿命が断トツの日本一になり、そして、まちなかに人が戻ってきた。	

31 柱		人口
☆理想の姿		1
1	【再掲】人口流入率が、全国でNo.1になっている。	

32 柱 市民協働☆理想の姿 3

1	【再掲】各地にある公共施設が地域社会に欠かせない存在になっている。
2	【再掲】定年を迎えた人材の活用。
3	【再掲】NPOと行政、産業、大学などの研究機関が連携し、環境問題や福祉問題その他社会問題に積極的に取り組んで、福祉・環境イノベーションとして浜松から全国に発信している。

33 柱 ボランティア☆理想の姿 2

1	【再掲】地域の福祉活動に参加する住民が現在の2倍になっている。
2	【再掲】元気な高齢者がボランティアとして地域で活躍している。

34 柱 行政☆理想の姿 4

1	全ての協働センターが民営化されている。
2	全ての施策は、仕組みの整備と目標数値の設定ではなく内容重視とする。
3	政策決定の場に複数の女性がいる。
4	保育園、就労、社会保障、学童など関連性のある相談を総合的に受け付けてくれる窓口がある。

35 柱 施設☆理想の姿 1

1	【再掲】各地にある公共施設が地域社会に欠かせない存在になっている。
---	-----------------------------------

36 柱 情報☆理想の姿 1

1	【再掲】メディア環境の整備に伴い未成年者へのフィルタリングも確実に行われる。【再掲】
---	--

37 柱 まちづくり☆理想の姿 1

1	【再掲】地区社会福祉協議会が充実し、住民による地域独自の福祉活動が活発に行われている。
2	【再掲】小規模多機能型居宅介護施設が地域に点在し、施設入所をさせることなく、家族が安心して在宅介護を続けられ、お年寄りも住み慣れたまちで暮らし続けられる。

38 柱 地域

☆理想の姿 7

1	【再掲】地域の協力ある教育環境の樹立。
2	【再掲】障害をお持ちの方が安心して暮らせる街。
3	【再掲】里親の数が現在の3倍となり、各中学校区に複数の里親家庭がある。
4	【再掲】地区社会福祉協議会が充実し、住民による地域独自の福祉活動が活発に行われている。
5	【再掲】地域の福祉活動に参加する住民が現在の2倍になっている。
6	【再掲】地区ごとに住民と専門職が協働して「福祉なんでも相談所」を開設し、住民生活に安心を提供している。
7	【再掲】入院中心の精神科医療が、地域中心の精神科医療になっている。

39 柱 災害対策

☆理想の姿 1

1	【再掲】日ごろの福祉活動によりつながりが形成され、「災害時要援護者」といわれる人々が安心して生活できる。
---	--

40 柱 安心安全

☆理想の姿 1

2	【再掲】(こどもの)ショートステイやトワイライトステイを実施できる事業所が増加し、区役所単位に3か所となる
---	---

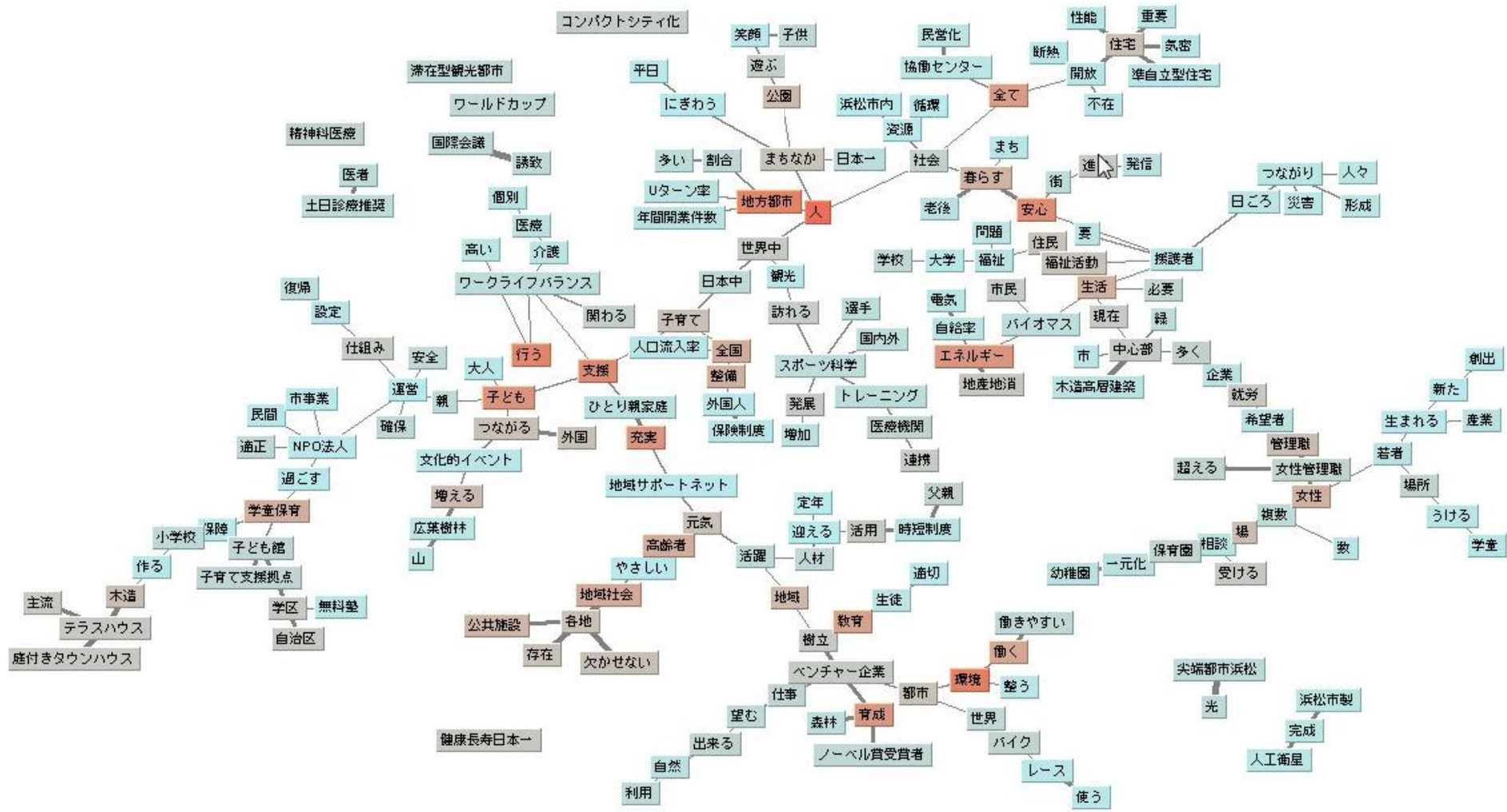
41 柱 全体

☆理想の姿 2

1	全ての人々が心安らかに暮らせる社会になっている。
2	「浜松の良いところ」を市民が10個以上、即答できるようになっている。

※再掲項目数:80項目

未来デザイン会議 柱案の概要マップ



キーワードの重要度・テキスト数によってグラデーション表示します。



意見交換会の進め方

日時： 第 1 回意見交換会＝平成 25 年 11 月 28 日（木）19:00～21:00

第 2 回意見交換会＝平成 25 年 12 月 16 日（月）19:00～21:00

※ 必要に応じて第 3 回、第 4 回を開催します。

場所： 浜松市役所本館 5 階庁議室

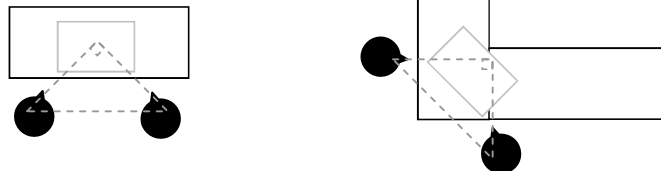
内容： 「未来の理想の姿」を考えよう

第 2 回未来デザイン会議で仮定した「柱」ごとに、基本構想に定める「未来の理想の姿」を考えます。

(1) 基本的事項

- チームを 2 人で結成します。
- 2 人の間に用紙を置きます。直角二等辺三角形をイメージします。

※ 配置例



- 「赤」＝客観的に重要、「黒」＝まあ重要、「青」＝主観的に面白い、として 3 色のサインペンを使います。
 - ※ 厳密に考えることなく、気軽に使い分けてください。
- 柱に対する思いや必要と思われるキーワードをお互いに書き込んでいきます。
 - ※ 文章ではなくキーワードを書き込みます。
 - ※ 秩序を考えないで、カオスをつくるようにどんどん書き込みます。
 - ※ 用紙全体を使い切るようにします。
 - ※ お互いに配慮しながら、相手の発言もメモしてください。
 - ※ 相互の領土は決めないで、2 人の脳ミソを混ぜ合わせてください。
- 時間内にアイデアをすべて出し切るようにしてください。
- 評価はせず、ささやかなものでも言葉にして出し切ります。
- 相手の考えを否定しないことが基本的ルールです。

(2) 進め方

○ 目的は、「柱」に対する 30 年後の「未来の理想の姿」を定めることです。

※※※ Step1 ※※※

- まず、用紙の中央に「柱」を書き込みます。
- 基本的事項に基づいて、柱に関する現状や課題、考えをキーワードとして書き込みます。
- 用紙全体を埋めるように書き込み、アイデアをすべて出し切ってください。
- 重要と思われる言葉は、○で囲んでください。
- 制限時間は 30 分です。

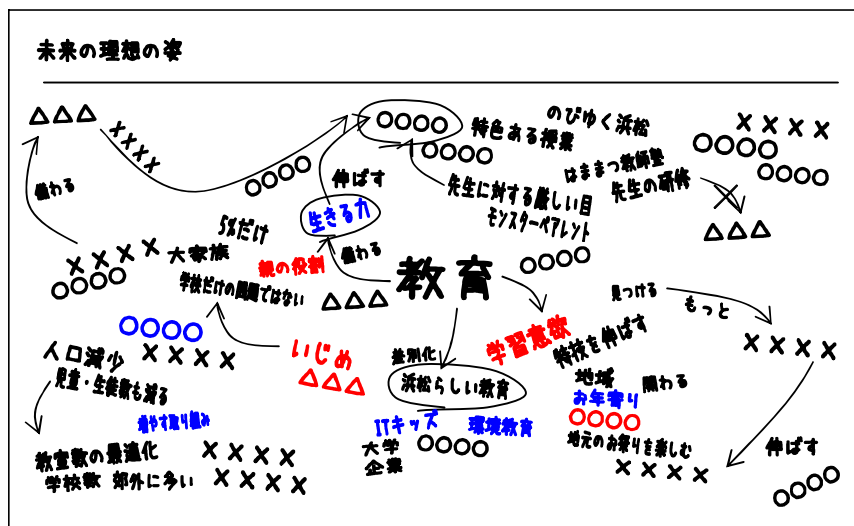
※※※ Step2 ※※※

- 用紙全体が埋まったら、「未来の理想の姿」を定めます。
 - ※ ビジョナリーワードになるよう配慮します。
 - ※ これまでの課題では状態「～している。」「～なっている。」としましたが、今回は柔軟に対応して構いません。
- 制限時間は 15 分です。(時間は厳守。できているところまでで一旦終了です。)

※※※ Step3 ※※※

- 3 チームごとに別れてプレゼンテーションを行います。
- 各チーム 5 分です。
- ①○で囲んだ重要なキーワード、②未来の理想の姿の説明、③ビジョナリーワードとして自慢できるところを説明してください。

用紙のイメージ



- 一つの柱に対して複数のチームがチャレンジします。
- 仮定した「未来の理想の姿」をもとに更に検討を深めます。
- マッピング（特に○付けのキーワード）をもとに理想の姿の説明文を作成します。

未来デザイン会議「意見交換会」意向調査表

お名前 _____

1 出欠意向調査

・第1回

日時：平成25年11月28日(木)午後7時00分から午後9時00分まで

場所：浜松市役所本館5階 庁議室

↓どちらかに○をつけてください↓

出席する ・ 欠席する

・第2回

日時：平成25年12月16日(月)午後7時00分から午後9時00分まで

場所：浜松市役所本館5階 庁議室

↓どちらかに○をつけてください↓

出席する ・ 欠席する

2 「未来の理想の姿」を考えてみたい「柱」について

今日の未来デザイン会議で仮定した「柱」のうち、「未来の理想の姿」を考えてみたい分野を優先順位をつけて4つ記載してください。

※意見交換会でのチーム編成の参考にさせていただきます。

ご希望に添えない場合があります。

希望順位	「柱」
第1希望	
第2希望	
第3希望	
第4希望	

本日提出できない方は、11月11日(月)までに、FAX又はEメールにてご提出ください。

Eメールの場合は、出欠及び柱の希望をメール本文に記載していただければ結構です。

(宛先)浜松市企画調整部企画課 金子・加藤 行

FAX : 053(457)2248 E-mail : kikaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp